















警 察									
組消防小	組防消平	組防消新	組防消福	防小	組防消秋	組防消額	組防消高		
二部	三部	一部	一部	一部	一部	一部	一部	一部	一部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同大字下高尾村	同大字上與平村	同大字天引村	同大字田篠村 小川村ノ内小字二日市	同小幡村大字小幡村 上野村 轟村	同秋畑村大字 <small>秋畑ノ内小字凡越 浦根 毘世ノ澤 殿場</small> 同大字 <small>秋畑ノ内小字梅ノ水 榮萩ノ久保 秋畑ノ内小字瀧ノ澤 來波ノ内</small>	同額部村大字南後箇村 岩染村	同高瀬村大字 <small>大島村 高瀬村ノ内小字上高瀬</small> 同大字内匠村 高瀬村ノ内小字下高瀬	同	同
四部	五部	四部	三部	二部	四部	三部	三部	三部	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同大字桑原村	同大字藤木村	同大字金井村	同大字星田村 君川村	同大字國峯村 善慶寺村	同大字秋畑村ノ内小字那須 同大字 <small>秋畑ノ内小字入山 赤谷ノ口 赤平</small>	同大字野上村	同大字高瀬村ノ内小字桐淵 中高瀬	同	同

警 察										
組消防小	組防消平	組防消新	組防消福	防小	組防消秋	組防消額	組防消高			
二部	三部	一部	一部	一部	一部	一部	一部	一部	一部	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同大字上小坂村 中小坂村ノ内小字蚊田	同小坂村大字 <small>下小坂村 中小坂村ノ内小字蚊田ヲ除ク</small>	同大字六車村	同月形村大字大日向村	同北甘樂郡馬山村大字 <small>馬山村小字 柳瀬下 鎌田上 鎌田中 島 大塚 羽場 田城 山際 天神 森 番場 若宮 上ノ谷戸</small>	同吉田村大字南蛇井村 中澤村	同尾澤村大字砥澤村 熊倉村	同磐戸村大字磐戸村 千原村	同下仁田町大字 <small>下仁田町 川井村ノ一部</small>	同黑岩村大字黑川村 別保村	同同大字小桑原村 相野田村 白岩村
三部	三部	二部	二部	二部	三部	四部	三部	六部	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同大字東野牧村	同大字大仁田村	同大字白山村 <small>馬山村小字横瀬下 藤田上 藤田石淵 堀ノ内 安樂地 竹ノ上</small>	同大字蚊沼村 神成村 上小林村	同同大字星尾村	同同大字大壠澤村	同同大字檜澤村	同同大字吉崎村 川井村ノ一部	同同大字下黑岩村	同同大字後賀村 蕨村	













察										
大	防組	真消	多々	組防消瀨渡	防組	三野	組消高島	組消梅島	防組野	大箇
一部	三部	二部	一部	三部	二部	一部	二部	一部	二部	一部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大川村大字仙石村	同大字成嶋村小字休泊	同大字成嶋村小字小蓋	同多々良村大字高根村	同同大字上早川田村	同同大字下三林村	同同三野谷村大字上三林村	同同高嶋村大字下藤川村	同同同大字上藤川村	同同梅島村大字新里村	同同同大字梅原村
二部	五部	四部	四部	六部	五部	四部	三部	四部	三部	五部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同大字吉田村小字本郷	同大字日向村	同大字木戸村	同同大字岡野村	同同同大字傍爾塚村	同同同大字足次村小字大新田	同同同大字野邊村	同同同大字入ヶ谷村	同同同大字秋妻村	同同同大字石打村	同同同大字南大島村

警										
貫佐	防組	長柄	防組	中野	防組	赤羽	防組	小泉	防組	海老
一部	三部	一部	一部	一部	一部	一部	一部	一部	三部	二部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同佐貫村大字須賀村	同同大字狸塚村	同同長柄村大字篠塚村小字上篠塚	同同中野村大字中野村	同同赤羽村大字羽附村	同同小泉村大字上小泉村	同同同大字須賀村	同同同大字新當郷村	同同同大字新當郷村	同同同大字上中森村	同同同大字上中森村
二部	四部	三部	二部	二部	二部	二部	二部	五部	四部	三部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同同大字大輪村	同同同大字篠塚村小字下篠塚	同同同大字赤堀村	同同同大字鶉村	同同同大字赤生田村	同同同大字下小泉村	同同同大字田谷村	同同同大字田谷村	同同同大字田谷村	同同同大字木崎村	同同同大字木崎村



警 田				防組
東消防組	白澤消防組	薄根消防組	川田消防組	防組 （一八八 告示四 一號二 追加テ 年）
一部 二部 三部 四部	一部 二部 三部 四部	一部 二部 三部 四部 五部	一部 二部 三部	一部 二部 三部 四部 五部
同 同 同 同	同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同	同 同 同
東村大字平川村 千鳥新田 同大字追貝村 同大字大揚村 同大字高戸谷村	白澤村大字高平村 同大字生枝村 同大字岩室村 同大字尾合村	薄根村大字下沼田村 同大字硯田村 白岩村 同大字恩田村 同大字井土ノ上村 同大字字楚井村 原村	川田村大字上川田村 同大字下川田村 今井村 同大字屋形原村ノ内小字笹屋	同大字川場湯原村 太田川村 小田川村 同大字萩室村 中野村 同大字立岩村
五部 六部 七部 八部	五部 六部 七部	六部 七部 八部 九部 十部	四部 五部	六部 七部
同 同 同 同	同 同 同	同 同 同 同 同	同 同	同 同
同大字老神村 同大字大原新町 同大字藪原村 同大字穴原村	同大字平出村 同大字上古語父村 同大字下古語父村	同大字堀廻村 同大字善桂寺村 大釜村 同大字石墨村 同大字戸神村 同大字町田村	同大字岩本村 同大字屋形原村ノ内小字笹屋	同大字生品村 同大字天神組

警 分 察 署				沼			和生消防組	川内消防組	防組
利南消防組	池田消防組	沼田消防組	沼田消防組	和生消防組	川内消防組	防組	和生消防組	川内消防組	防組
一部 二部 三部 四部	一部 二部 三部 四部	一部 二部 三部 四部	一部 二部 三部 四部	一部 二部 三部	一部 二部 三部	一部 二部 三部 四部 五部	一部 二部	一部 二部 三部	一部 二部 三部 四部 五部
同 同 同 同	同 同 同 同	同 同 同 同	同 同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同 同 同	同 同	同 同 同	同 同 同
利南村大字戸鹿野村 同大字戸鹿野新町 同大字沼須村 同大字上沼須村	池田村大字岡ノ谷村 同大字奈良村 同大字秋塚村 同大字下發知村 發知新田	沼田村大字岡ノ谷村 同大字秋塚村 同大字下發知村 發知新田	沼田村大字岡ノ谷村 同大字秋塚村 同大字下發知村 發知新田	利根郡沼田町小字倉内町 柳町 高橋場町 同小字原新町 材木町 同小字上ノ町 仲町 馬喰町	同相生村大字天王宿村 蕪町村 同大字下新田村 天沼新田村	同川内村大字須永村 同大字高津戸村 同大字山田村ノ内小字下仁田山	同相生村大字天王宿村 蕪町村 同大字下新田村 天沼新田村	同川内村大字須永村 同大字高津戸村 同大字山田村ノ内小字下仁田山	同小字蟬 折ノ内
五部 六部 七部	五部 六部 七部	五部 六部 七部	五部 六部 七部	四部 五部	四部 五部 六部	四部 五部 六部	三部	四部 五部 六部	六部
同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同	同 同 同	同 同 同	同	同 同 同	同 同 同
同大字下久屋村 同大字上久屋村 同大字横塚村	同大字中發知村 同大字上發知村 同大字佐山村	同大字中發知村 同大字上發知村 同大字佐山村	同大字中發知村 同大字上發知村 同大字佐山村	同小字坊新田町下ノ町 鍛冶町 同小字榛名町	同大字如來堂村	同小字中仁田山 名久木 同小字上仁田山 同大字西小倉村 東小倉村	同大字如來堂村	同小字中仁田山 名久木 同小字上仁田山 同大字西小倉村 東小倉村	同小字茂木 狸原 孫



久名	町			原			署		
	組防消嶋岩 (廿令縣年二冊 正改テ二號一)	組防消上坂	防組條中之	防組根赤	防組保久	防組保久	防組根赤	防組保久	防組保久
一部	三部	二部	一部	三部	二部	一部	三部	二部	一部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 名久田村大字平村	同 同 大字 矢倉村 岩下村 小字 大村 机 天神 松谷村 岩下村 小字 姉山 漆ヶ谷 戸組	同 同 大字 本宿村 坂上村 大字 大戸村 同 大字 大柏木村	同 同 大字 伊勢町 同 大字 西中ノ條村 同 大字 須賀尾村	同 同 大字 生越村 同 大字 多那村 石戸新田 同 大字 根城村 大字 輪組村	同 同 大字 保村 同 大字 久保村	同 同 大字 保村 同 大字 久保村	同 同 大字 根城村 大字 輪組村	同 同 大字 保村 同 大字 久保村	同 同 大字 保村 同 大字 久保村
二部	六部	五部	四部	五部	四部	三部	四部	三部	二部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 同 大字 横尾村	同 同 大字 三島村 小字 上郷 大澤 細谷 根吉屋 三島村 小字 唐堀 萬木澤 大竹 澤尻 生原 四戸	同 同 大字 須賀尾村 同 大字 萩生村	同 同 大字 市城村 同 大字 青山村	同 同 大字 青木村 砂川村 同 大字 日影南郷村 柿平村 日向南郷村 同 大字 小松村 根利村	同 同 大字 川戸村 金井村	同 同 大字 川額村 小字 上組 同 小字 中組 下組	同 同 大字 員ノ瀬村	同 同 大字 員ノ瀬村	同 同 大字 員ノ瀬村

察																
組防消品片			組防消七水			防組原湯		古馬消防組		組防消野桃						
五部	四部	三部	二部	一部	四部	三部	二部	一部	三部	二部	一部	五部	四部	三部	二部	一部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 同 大字 花咲村	同 同 大字 摺淵村	同 同 大字 幡谷村	同 同 大字 下平村 築地村	同 同 大字 須賀川村 菅沼村	同 同 大字 高日向村	同 同 大字 小日向村 同 大字 吉木村 幸知村 同 大字 藤原村 夜後村 栗澤村 綱子村	同 同 大字 羽場村	同 同 大字 原村 大字 新卷村	同 同 大字 師村	同 同 大字 真庭村 政所村	同 同 大字 牧村 大字 後閑村	同 同 大字 石倉村	同 同 大字 小川村 内小字 下組	同 同 大字 小川村 内小字 下組	同 同 大字 上組	同 同 大字 月夜野町 内小字 組町
九部	八部	七部	六部	五部	七部	六部	五部	四部	五部	四部	三部	九部	八部	七部	六部	五部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 同 大字 東小川村	同 同 大字 土出村 戸倉村	同 同 大字 越本村	同 同 大字 御座入村	同 同 大字 小仁田村 寺間村	同 同 大字 谷川村 湯原村 阿能川村	同 同 大字 川上村	同 同 大字 相俣村	同 同 大字 上牧村 奈女澤村 大沼村	同 同 大字 下牧村	同 同 大字 津村 内小字 中組	同 同 大字 津村 内小字 中組	同 同 大字 小川嶋	同 同 大字 竹ヶ改戸	同 同 大字 津村 内小字 中組	同 同 大字 上津村	同 同 大字 上津村



ヲ防キ守リ猥リニ火事場ヲ徘徊致ス間敷事  
 一若シ犯シテ壹丁以内ニ立入り傍觀スル者アルトキハ警察官吏ニ於テ消防方ヲ指揮シ之ヲ肯セサル者ハ違警罪ヲ以テ處分スルコトアルヘシ

●群馬縣令第三十三號 明治十五年四月十九日  
 警察本署 警察署

別紙甲第廿八號ノ通布達候ニ付無關係之者ハ火事場壹丁以内ノ地ヘ立入ラサル様注意シ若シ犯シ入り傍觀スル者アラハ消防方ヲ指揮シ故ナク肯セサルトキハ刑法第四百二十六條第二項ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

### 銃砲火藥電氣

●群馬縣令第三十二號 明治三十二年八月二十八日  
 銃砲火藥類ニ關スル願届出心得左ノ通相定ム

- 銃砲火藥類ニ關スル願届出心得
- 第一條 銃砲火藥類取締法令ニ依リ陸海軍兩大臣又ハ縣廳ニ差出スヘキ願届書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
  - 第二條 軍用銃砲所有者轉居改氏名ヲ爲シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其轉居地所轄警察官署ヲ異ニスルトキハ轉居前所轄ノ警察官署ヘモ届出ヘシ
  - 第三條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商轉居改氏名又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ其死亡ニ係ルトキハ相續人又ハ其家ヲ管理スル者ヨリ本條

ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第四條 他廳府縣ヨリ軍用銃砲ヲ携帶居住シタルトキハ其種類箇數ヲ詳記シ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
  - 第五條 火藥庫及仮貯藏所ノ使用ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
  - 第六條 銃砲火藥類取締法施行細則第十五條ニ依リ銃砲製造營業者ハ第壹號第二號銃砲商及火藥商ハ第三號第四號様式ノ帳簿ヲ備ヘ取引ノ都度記載スヘシ
- 附 則
- 第七條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十六條ノ期間ハ明治三十二年十二月末日迄トス

(様式零之)

●群馬縣訓令甲第八十號 明治三十二年八月二十八日  
 銃砲火藥類取締法令取扱手續左ノ通相定ム

警察署 警察分署

- 銃砲火藥類取締法令取扱手續
- 第一條 銃砲火藥類取締法第三條及第五條第六條ノ願出ヲ受ケタルトキハ本人ノ屬籍身分住所職業氏名年齢素行及前科ノ有無經歷ヲ取調意見ヲ具シ進達スヘシ
- 第三條 銃砲火藥類取締法第八條第九條ニ依リ營業ノ許可ヲ取消シ若クハ停止又ハ施行規則第六條ニ依リ輸入許可取消ノ必要アリト認メタルトキハ其事實ヲ詳具シ上申スヘシ

第三條 施行規則第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ検査シ其結果ヲ詳記シ届書ト共ニ進達スヘシ

第四條 施行規則第四條第七條ニ依リ軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓受(買受交換以下做之)ノ願出ヲ受ケタルトキハ讓受人ノ住所職業氏名年齢素行及使用ノ目的ヲ取調不都合ナキトキハ許可證ヲ下付スヘシ

第五條 施行規則第六條第二項及第八條ノ願出ヲ受ケタルトキハ本人ノ屬籍身分住所職業氏名年齢及使用ノ目的ヲ取調意見ヲ具シ進達スヘシ

第六條 施行規則第十條ニ依リ帳簿ノ検査ヲ爲シ不都合ノ廉アリタルトキ又ハ同則第十七條ニ依リ修繕及禁停止ヲ命シタルトキハ其事實ヲ詳具シ報告スヘシ

第七條 施行規則第十二條ニ依リ火藥類貯藏ノ爲メ倉庫ノ検査願ヲ受ケタルトキハ倉庫及周圍危険ノ有無又ハ火藥ノ種類數量ヲ取調不都合ナキトキハ許可スヘシ

前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ貯藏者ノ屬籍身分住所職業氏名年齢倉庫ノ位置火藥ノ種類數量ヲ報告スヘシ

第八條 施行規則第十五條第一項ノ願書ヲ受ケタルトキハ同則第十八條第一項第二項ニ抵觸ノ有無ヲ踏査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

同則第十五條第二項ノ願書ヲ受ケタルトキハ検査ヲ爲シタル事實ヲ詳具シ報告スヘシ

第九條 施行規則第十九條ニ依リ火藥類ノ運搬ヲ許可シタルトキハ其住所氏名火藥ノ種類數量運搬ノ日時道路及運搬先等ヲ沿道所轄ノ警察官署ニ通報スヘシ

但沿道他廳府縣ニ涉ルトキハ警視廳ハ第二部其他ハ警察部ニ本條ノ事項ヲ通報スヘシ

第十條 施行規則第四條乙號乃至丁號ノ許可證ハ願書ト割印スヘシ

第十一條 施行規則第十二條ノ届書ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ報告スヘシ

第十二條 施行規則第十二條ニ依リ届出タル銃砲及火藥類ハ警察報告例ニ依リ報告スヘシ

第十三條 軍用銃砲ハ第一號様式ノ臺帳ニ記入スヘシ

軍用銃砲讓受火藥類讓受運搬許可證番號簿ヲ備ヘ各別ニ番號ヲ設ケ許可年月日及住所氏名年齢ヲ記入スヘシ

第十四條 火藥庫仮貯藏所倉庫ハ第二號様式ノ人名簿ニ記入スヘシ

(様式略之)

●群馬縣告示第四百十九號 明治三十二年八月二十八日  
銃砲商火藥商ヲ許可スヘキ郡市及其人員左ノ通相定ム

所轄警察官署名	郡市名	人員		
		銃砲商	火藥商	員
前橋警察署	前橋市	一	二	人
大胡警察署	勢多郡	一	一	人
高崎警察署	群馬郡	二	二	人
澁川警察署	全郡	一	一	人

安中警察署	碓氷郡	一	人	一	人
松井田分署	全郡	一	人	一	人
富岡警察署	北甘樂郡	一	人	一	人
下仁田分署	全郡	一	人	一	人
藤岡警察署	多野郡	一	人	一	人
萬場分署	全郡	一	人	一	人
伊勢崎警察署	佐波郡	一	人	一	人
太田警察署	新田郡	一	人	一	人
館林警察署	邑樂郡	一	人	一	人
桐生警察署	山田郡	一	人	一	人
大間々分署	全郡	一	人	一	人
沼田警察署	利根郡	一	人	一	人
原町警察署	吾妻郡	一	人	一	人
長野原分署	全郡	一	人	一	人
附記	定員中欠員アルトキハ警察官署ノ所轄ヲ異ニスルモ一郡内ナル時ハ許可スルコトアルヘシ				

◎群馬縣告示第二十九號 明治二十三年四月十五日

陸軍省火藥類拂下ノ儀ハ従前砲兵第一方面及第二方面ニ於テ取扱相成候處自今東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ニ於テ取扱相成候條此旨心得ヘシ

但但拂下手續ノ儀ハ従前ノ通

◎群馬縣丁第十六號 明治十三年八月二十七日

「西群馬郡」岩鼻町「倉賀野驛」「臺新田村」「綿貫村」「八幡原村」

「西群馬郡」岩鼻町外一驛三ヶ村地内へ陸軍省火藥製造所建設相成候ニ付テハ右近傍危險不穩候條長五十間以内へ家屋建築不致様可相心得此旨諭達候事

◎群馬縣丁第十七號 明治十三年八月二十七日

（全年丁第十六號ノ件郡役所へ心得シム全文ニ付畧）

◎群馬縣甲第三十九號 明治十八年六月廿三日

烟火取締規則別冊ノ通改定ス

（別冊）

烟火取締規則

第一條 烟火製造營業ヲ爲サントスル者ハ附錄第一號書式ニ準シ其所長ノ與書アル願書ニ製造所及ヒ周圍十間以内ノ圖面並ニ其地主ノ承諾書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出免狀ヲ受クヘシ

第二條 烟火請賣營業ヲ爲サントスル者ハ附錄第二號書式ニ準シ願書ヲ作り其所戸長ノ與書ヲ得テ所轄警察署又ハ分署ニ願出免狀ヲ受クヘシ

第三條 前二條ノ營業者廢業セントスルトキハ屆書ニ戸長ノ與書ヲ得テ免狀ヲ添ヘ製造人ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ請賣人ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出ヘシ

第四條 營業者轉居改氏名或ハ免狀ヲ遺失毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シタル願書ニ戸長ノ與書ヲ得製造人ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ請賣人ハ所轄警察署又ハ分署ニ免狀ノ書換若クハ下附ヲ願出ヘシ

第五條 製造營業者其製造所ヲ移轉若クハ改造セントスルトキハ更ニ第一條ノ手續ニ從ヒ許可ヲ受クヘシ

第六條 製造營業者ハ附錄第三號雛形ニ準シ看板ヲ店頭ニ掲出スヘシ

第七條 營業者ニアラスニテ臨時自用ノ烟火ヲ製造セントスル者ハ附錄第四號式ニ準シ願書ニ烟火ノ種類個數ヲ詳記シ地主承諾書ヲ除クノ外第一條ノ手續ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

前項免狀ハ免狀ニ記載ノ日ヨリ三十日ヲ過クルトキハ其効ヲ失フモノトス

第八條 前條免狀ヲ受ケタル者烟火製造ヲ畢リ又ハ免狀ノ期限ヲ經過シタルトキハ三日内ニ屆書ニ戸長ノ與書ヲ得所轄警察署又ハ分署ヲ經テ免狀ヲ縣廳ニ返納スヘシ

第九條 烟火製造所入口ニハ附錄第五號雛形ニ準シ標本ヲ建ツヘシ

第十條 日出前日没後ハ烟火ヲ製造スヘカラス

第十一條 製造營業者ハ附錄第六號式ニ準シ毎月買入タル火藥ノ種類數量賣渡人ノ住所氏名並ニ賣渡シタル烟火ノ種類個數及其火藥ノ元量ヲ詳記シ翌月十日迄ニ所轄警察署又ハ分署ニ願出ヘシ

第十二條 十六歳未満ノ者ニハ小烟火、(線香鼠白玉烟火ノ類)ノ外及ヒ白痴瘋癲音啞者ニハ一切ノ烟火ヲ販賣スヘカラス

第十三條 仕掛又ハ打揚烟火ヲ興行セントスル者ハ附錄第七號式ニ準シ其日時場所方法種類個數筒口徑寸法及ヒ賣主ノ住所氏名若クハ自製ノ烟火ナルトキハ其自製タルコトヲ詳記シタル願書ニ地主運署ノ上其所戸長ノ與書ヲ得場所周圍二丁以内ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十四條 打揚烟火ハ家屋ヨリ直經二丁國道縣道及ヒ鐵道線路ヨリ一丁以上ノ距離アル場所ニアラサレハ興行スルコトヲ許サス

第十五條 仕掛又ハ打揚烟火興行場ニハ防圍其他ノ方法ヲ以テ參觀人ヲ近寄ラシムヘカラス

第十六條 仕掛又ハ打揚烟火ノ興行ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス

第十七條 飛矢流星等危險ノ虞アル烟火ハ興行スルコトヲ許サス

第十八條 已ニ許可ヲ得テ仕掛又ハ打揚烟火興行中ト雖モ警察官ニ於テ危險ノ虞アリト認ムルトキハ臨時停止スルコトアルヘシ

第十九條 警察官ニ於テ烟火ノ検査ヲ必要ト認ムルトキハ營業者タルト否トテ問ハズ何時ニテモ其家宅若クハ製造所等ニ臨檢スルコトアルヘシ

第二十條 前二條ノ場合ニ於テハ警察官ノ命ヲ拒ミ又ハ其臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス  
第二十一條 此規則ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢  
以下ノ科料ニ處ス  
但刑法ニ依リ處分スヘキモノハ此限ニアラス

附錄第壹號

烟火製造營業願

群馬縣上野國何郡何(町村)何番地居住

身分

何

某

當何月何年何月

私儀御規則ヲ遵守シ烟火製造營業仕度御許可ノ上宛狀御下付被下度別紙製造所圖面並地主承諾  
書相添奉願候也

右

何

某印

明治何年何月何日

群馬縣令何某殿

附錄第二號

烟火請賣營業願

群馬縣上野國何郡何(町村)何番地居住

身分

何

某

當何月何年何月

私儀御規則ヲ遵守シ烟火請賣營業仕度御許可ノ上宛狀御下付被下度奉願候也

右

何

某

明治何年何月何日

群馬縣令何某殿

附錄第三號

群馬縣上野國何郡何(町村)何番地居住

身分

何

某

組以長中

□ 烟火製造人

曲尺二尺

附錄第五號

烟火製造所

烟火製造所

曲尺方四寸以上 曲尺高六尺以上

警察

銃砲火藥電氣





身分職業

何

某

當何月何年何月

一仕掛烟火 何 個

但方法 何々

一何々烟火 何 個

一筒口徑寸法 何寸何本

右ハ烟火製造營業人何郡何(町村)何某ヨリ買受ケ(又ハ私儀御許可ヲ受ケ製造シ)タル烟火ニシテ來ル何月何日何々ノ爲メ午(前後)第何時ヨリ何郡何村何所ニ於テ興行致度ニ付御許可被下度別紙場所圖面相添地主連署ノ上奉願候也

右

明治何年何月何日

何

某印

群馬縣令何某殿

●群馬縣第三十六號

明治十八年八月三日

警察本署

警察署

警察分署

烟火取締規則取扱手續別冊ノ通相定ム

烟火取締規則取扱手續

第一條 警察署警察分署ニ於テ規則第一條ニ依リ烟火製造營業ノ願出ヲ受ケタルトキハ本人ノ資

力品行及ヒ曾テ輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルコトノ有無ヲ取調尙ホ實地檢査ノ上意見書ヲ附シ書類ヲ警察本署ニ進達スヘシ

警察本署ニ於テハ書類ヲ審按シ許否ノ手續ヲ爲シ其許可シタル者ニハ附錄第一號式ニ準シ免狀ヲ作り原警察署又ハ分署ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

第二條 警察署警察分署ニ於テ規則第二條ニ依リ烟火請賣營業ノ願出ヲ受ケタルトキハ書類ヲ審按シ其不都合ナキ者ハ附錄第二號式ニ準シ免狀ヲ下付スヘシ

第三條 警察本署ニ於テハ烟火製造營業人名簿ヲ警察署警察分署ニ於テハ烟火請賣營業人名簿ヲ作り免狀ヲ下付スルトキ之ト割印スヘシ

第四條 警察署警察分署ニ於テ規則第三條ニ依リ廢業ノ届出ヲ受ケタルトキ其製造營業者ニ係ルハ届書及ヒ免狀ヲ警察本署ニ進達シ請賣營業者ニ係ルハ其旨人名簿ニ記入スヘシ警察本署ニ於テ其進達ヲ受ケタルトキ亦同シ

第五條 警察署警察分署ニ於テ規則第四條ニ依リ免狀ノ書換又ハ再下付ノ願出ヲ受ケタルトキハ事由ヲ取調其製造營業者ニ係ルハ意見書ヲ附シ書類ヲ警察本署ニ進達シ請賣營業者ニ係ルハ事實相違ナシト認ムルモノニ限り免狀ヲ下付スヘシ警察本署ニ於テ其進達ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六條 警察署警察分署ニ於テ規則第五條ニ依リ烟火製造所ノ移轉若クハ改造ノ願出ヲ受ケタルトキハ第一條ノ手續ヲ爲シ書類ヲ警察本署ニ進達スヘシ

警察本署ニ於テハ書類ヲ審按シ許否ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 警察署警察分署ニ於テ規則第七條ニ依リ自用煙火製造ノ願出ヲ受ケタルトキハ第一條ノ手續ヲ爲シ書類ヲ警察本署ニ進達スヘシ

警察本署ニ於テハ同條第二項ノ手續ニ準シ處分スヘシ

第八條 警察署警察分署ニ於テ規則第八條ニ依リ自用煙火製造免狀ノ返納ヲ受ケタルトキハ届書ト共ニ警察本署ニ進達スヘシ

第九條 警察署警察分署ニ於テ規則第十一條ニ依リ煙火及ヒ火藥賣買ノ届出ヲ受ケタルトキハ附錄第三號式ニ準シ煙火及ヒ火藥賣買表ヲ作り毎月十五日マテニ警察本署ニ進達スヘシ

第十條 警察署警察分署ニ於テ規則第十三條ニ依リ煙火興行ノ願出ヲ受ケタルトキハ書類ヲ審按シ尙ホ其事情ヲ取調不都合ナシト思料スルモノハ許可スヘシ

第十一條 煙火興行ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ巡查ヲ派遣シ現場ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第十二條 警察署警察分署ニ於テハ規則第十九條ニ依リ煙火製造所ハ毎月一回以上煙火請賣所ハ必要ト認ムル場合ニ於テ臨時検査ヲ爲スヘシ

(附錄零之)

●群馬縣令第四十號 明治三十三年四月二十日

銃砲射の場取締規則左ノ通相定ム

銃砲射の場取締規則

第一條 本則ニ於テ銃砲射のト稱スルハ一定ノ場所ヲ設ケ軍用銃砲又ハ非軍用銃砲ヲ以テ實丸射

的若シハ射撃ヲナスモノヲ云フ

第二條 銃砲射の又ハ其營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ射的場所轉ノ警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 射的ノ方法日時

二 射的場ノ位置構造及仕様書

三 射的場及其近傍ノ圖面

數人共同ニ係ルモノハ主幹者ヲ定メ主幹者ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 十六歳未満ノ者ハ前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル者銃砲射の又ハ其營業ヲ廢止シ若クハ代替轉居改氏名ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

射的場ヲ讓受又ハ主幹者ヲ變更シ若クハ射的ノ方法日時ヲ變更シタルトキハ亦前項ニ同シ

第五條 射的場ノ全部若クハ幾部ヲ改造セントスルトキハ其圖面及仕様書ヲ添ヘ第二條ノ手續ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 射的場ノ構造又ハ改造ノ工事ヲ竣リタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クルニ非サレハ射的ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 第二條ノ許可ヲ受タル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 射手彈藥ノ裝填及照準發射ノ方法ヲ監視スルコト
- 二 銃器ハ時々検査シ異狀アルカ又ハ其用ニ堪ヘス危險ノ虞アルモノハ之ヲ使用セシメサルコト

三 十六歳未満ノ者ニ射的ヲ爲サシメサルコト  
 四 發射ニ熟達セサルモノハ百米突以上ノ距離ニ於テ射的ヲ爲サシメサルコト  
 五 酩酊スル者及白痴瘋癲ト認ムル者ハ場内ニ入ラシメサルコト  
 六 火藥類ヲ取扱フ場所ニ於テ喫煙等ヲ爲サシメサルコト  
 第八條 射的時限ハ日出ヨリ日没マテトス  
 第九條 射的場ハ左ノ制限ニ從ヒ構造スヘシ  
 但シの阜ヲ要セサルモノハ此限ニアラス  
 一 的阜ノ後方千五百米突兩側五百米突ノ空地ヲ設ケ置クヘシ若シ其餘地ナキトキハ堅牢ナル覆道又ハ射場前十五米突ノ所ヨリ的阜前二十五米突ノ間ニ於テ十米突毎ニ射門ヲ建設スヘシ  
 但シ天然ノ丘阜ニ據テ的阜ヲ築キ背後左右人家及道路遠隔ノ場所ハ此限ニアラス  
 二 的阜ハ幅八十尺ニシテ四面ノ傾斜高度ハ概テ四十五度トス標的二個以上ヲ設クルモノハ其一個毎ニ的阜ノ幅二十四尺ヲ伸張スヘシ  
 三 的阜築造用ノ土性脆軟質ナルトキハ其中眞ニ土俵ヲ積ミ若クハ乱杭ヲ立列シテ崩壞ヲ防クヘシ  
 四 射門ハ長サ一尺五寸ノ木材ヲ累積シ(木口ヲ前ニスヘシ)衝撃毀壞ヲ防ク爲メ釘録ノ類ヲ以

テ貫綴シ其高サハ第一門二十尺トシ以下一門毎ニ一寸二分ヲ遞加シ幅ハ總テ十八尺トス又其第一門口ハ高サ八尺幅三尺五寸トシ以下一門毎ニ高サ九分幅四分ヲ遞加スヘシ  
 第十條 射的營業者ニ非サル者第二條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタルトキハ三日以下ノ拘留又ハ壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十二條 從來ノ射的場ニシテ本則ニ抵觸スルモノハ第二條ノ手續ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ  
 ◎群馬縣令第一百號 明治二十年十月十三日  
 威銃取締規則左ノ通相定ム

威銃取締規則

第一條 山林田野ニ於テ鳥獸ノ害ヲ除ク爲メ威銃ヲ使用セントスルモノハ事狀ヲ具シ其場所ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出免狀ヲ受クヘシ(廿四年縣令十  
 九號ニテ追加)  
 第二條 左ニ列記シタルモノニハ免狀ヲ付與セサルヘシ  
 一 十六歳未満ノ者  
 一 白痴瘋癲ノ者(廿一年縣令九號ニテ第二條三項及第十一條削除)  
 第三條 免狀有効期限ハ一ヶ月間トス  
 第四條 免狀無効ニ至リタルトキハ直ニ還納スヘシ  
 第五條 免狀滿期ニ至ルモ其害仍ホ止マサルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スコトヲ得  
 第六條 威銃ハ實丸ヲ用ユ可カラズ

第七條 (消滅)

第八條 威銃使用中ハ常ニ免狀ヲ携帶シ警察官吏ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ之ヲ示ス可シ

第九條 人家又ハ人ノ方位ニ向テ發砲スヘカラス

第十條 免狀ヲ遺失毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ願出可シ

但更ニ免狀ヲ受クルニアラサレハ威銃ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 本則第一條第六條第九條ニ違背シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 第八條ニ違背シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

●群馬縣令第二十四號 明治二十八年四月十二日

狩獵法出願者心得左ノ通り相定ム

狩獵法出願者心得

第一條 狩獵法又ハ狩獵法施行細則ニ依リ縣廳又ハ農商務省ヘ差出スヘキ諸願屆書ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 狩獵願書ニハ狩獵法施行細則第三條ニ要スル事項ノ外使用ニ供スル獵具ノ種類ヲ詳記シ且狩獵法第九條ノ區別ニ係ル納稅等級ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第三條 禁獵制札建設ノ許可ヲ得タル者ハ狩獵法施行細則第七條ノ雛形ニ倣ヒ制札ヲ調製シ所轄警察官署ヘ差出シ其記載ヲ請フヘシ

第四條 狩獵法第十九條ニ依リ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ヲ要スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

- 一 住所族籍職業氏名年齢
- 二 捕獲ヲ要スルモノハ其理由並ニ捕獲スヘキ鳥獸ノ種類員數期限<sup>三週間以内ニ限ル</sup>及捕獲ノ方法
- 三 驅除ヲ要スルモノハ其被害ノ狀況並ニ驅除スヘキ鳥獸ノ種類期限區域<sup>圖面ヲ要ス</sup>及驅除ノ方法

第五條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其捕獲又ハ驅除シタル鳥獸ノ種類員數ヲ毎月五日限リ前月分ヲ取調ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

●群馬縣訓令第三十四號 明治二十八年四月十二日 警察署 警察分署

狩獵法取扱心得左ノ通り相定ム

狩獵法取扱心得

第一條 狩獵ノ願書ヲ受ケタルトキハ狩獵法第九條ノ各項其他必要ノ事項ヲ調査シ且使用ノ銃器ハ銃砲臺帳ニ照合シ法規上抵觸ノ廉ナキニ於テハ免狀ヲ下付スヘシ

第二條 狩獵免狀ヲ下付シタルトキハ其都度所轄稅務署ヘ通知スヘシ<sup>(廿九年訓令甲百三十三號ニテ改正)</sup>

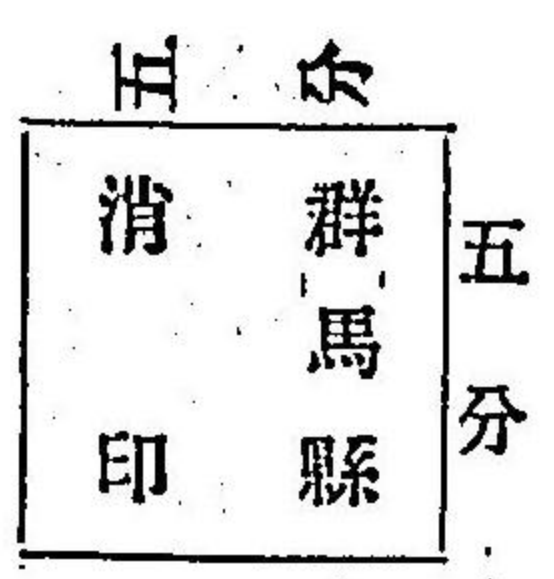
第三條 狩獵法第十三條第一項ニ依リ免狀亡失ノ届出アリタルトキハ速ニ警察部ニ報告スヘシ

同條第二項ニ依リ免狀ノ再渡又ハ書換ノ請求アリタルトキハ事實ヲ調査シ更ニ免狀ヲ下付スヘシ

第四條 狩獵法施行細則第五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ免狀原簿ニ記入シ其移轉先管内ナルトキ

ハ其地ノ警察官署ニ通知スヘシ  
 族籍氏名ヲ變換シタル者ハ免狀ヲ訂正シ署長ノ官印ヲ捺捺スヘシ  
 第五條 共同狩獵地免許及區域變換ノ願書ヲ受ケタルトキハ狩獵法施行細則第八條第九條第十條ノ各項ヲ調査シ警察部ニ進達スヘシ  
 第六條 禁獵制札建設ノ願出ヲ受ケタルトキハ狩獵法施行細則第六條ノ事實ヲ調査シ意見書ヲ添ヘ警察部ニ進達スヘシ  
 第七條 禁獵制札ノ記載ヲ請フ者アルトキハ狩獵法施行細則第七條ノ雛形ニ依リ記入ノ上還付スヘシ  
 第八條 鳥獸ノ驅除又ハ捕獲ノ願出ヲ受ケタルトキハ狩獵法取扱手續第一條各項ノ事實ヲ調査シ意見書ヲ添ヘ警察部ニ進達スヘシ  
 第九條 狩獵免狀ハ毎年使用高ヲ概算シ其年八月三十一日限り警察部ニ請求スヘシ  
 第十條 狩獵法施行細則第二十二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ保護鳥獸飼養原簿ニ登録シ其異動ヲ加除スヘシ  
 第十一條 免狀統計表ハ狩獵法取扱手續第八條第三號表式ニ據リ調製シ甲種ハ十一月三十日乙種ハ五月五日迄ニ警察部ニ報告スヘシ(卅一年訓令甲五  
十號ニテ改正)  
 ●群馬縣訓令甲第九號 明治三十年十月四日 警察署 警察分署  
 狩獵免許出願書ニ貼付シタル印紙消印用トシテ左記 印章 付條免狀下附ノ際願書ノ紙面ト貼

付印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用ヒテ之ヲ捺捺スヘシ



五分  
 ●群馬縣令第二十五號 明治三十一年四月十五日  
 狩獵法第十條第二項ニ依リ狩獵乙種免狀ノ有効期限ヲ十月一日ヨリ翌年四月三十日迄伸長ス  
 ●群馬縣訓令甲第二十八號 明治三十一年三月十七日 警察署 警察分署  
 狩獵法第九條ノ免許稅ハ一箇年度(會計年度)分ヲ集計シ左ノ様式ニ依リ毎年四月十五日マテニ報告スヘシ  
 (様式略之)  
 ●群馬縣訓令甲第五十一號 明治三十三年五月四日 警察署 警察分署  
 明治三十一年(三月)訓令甲第二十八號ニ依リ毎年四月報告スヘキ狩獵免許稅表明治三十三年度以降ハ外國人ニ係ル免許人員稅額ヲ備考欄ニ内譯掲載スヘシ  
 ●群馬縣甲第五十四號 明治十九年五月二十七日  
 魚鳥獸ヲ捕フル爲メ激烈ナル揮發物ヲ製造シ又ハ之ヲ貯藏シ又ハ使用「スルコトヲ禁ス此規則ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右布達候事

●群馬縣令第四十六號 明治三十年十月八日

明治三十年六月遞信省令第十四號電氣事業取締規則ニ依リ遞信大臣若クハ本廳ニ差出スヘキ諸願  
届書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

興行及技藝稼人取締

●群馬縣令第二十一號 明治二十一年三月十九日

劇場構造規則別冊ノ通定ム

但明治十九年三月本縣甲第三十三號演劇取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

従前ノ劇場ニシテ引續キ使用セントスル者ハ來ル四月三十日マテニ願出允許ヲ受クヘシ

劇場構造規則

第一條 劇場ヲ建設セントスルモノハ其構造及建設地ノ圖面ニ四隣三十間以内ノ地主家主居住人  
ノ承諾書ヲ添ヘ戶長ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
改造セントスルトキ亦同シ

但承諾證ヲ要セス

第二條 劇場ノ構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一 劇場ハ非常災害ヲ避クルカ爲メ其正面ニ四間以上左右及後面ニ各三間以上ノ空地ヲ存スル事  
一 一家根ハ瓦葺又ハ瓦張等不燃質物ヲ以テ覆フ事

一 通常出入口ノ外三面ニ幅六尺以上ノ非常口ヲ設ケ其扉ハ外開キ若クハ引戸ニスヘキ事

一 二階棧敷ハ堅牢ニ構造シ且ツ幅四尺以上ニシテ裏板ヲ張リタル階子ヲ三個以上ヲ設クル事

一 燈火取扱室ノ内部ニハ石若クハ煉瓦等不燃質物ヲ用ユル事

一 場内ハ充分ノ光線ヲ取り且ツ空氣流通ノ爲メ劇場ノ坪敷ニ應シ相當ノ窓牖ヲ設クル事

一 便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル所ニ設ケ尿管溜ハ石陶器等ヲ用ヒ其周曲ハ石又ハ漆喰ノ類ニテ  
填塞シ汚液ノ浸透ヲ防ク事

第三條 劇場落成シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受ケ認可ヲ得ルニアラサレ  
ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條 警察官ハ前條ノ場合ニ於テ其構造衛生上ニ害アリ危險ノ虞アリ又ハ第二條ノ制限ニ違フ  
ト認ムルトキハ其全部若クハ幾部ノ改造ヲ命スルコトアルヘシ座主ハ之レヲ拒ムヲ得ス

第五條 左ノ場合ニ於テハ戶長ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

但第一項ハ賣買讓渡主雙方連署ヲ要ス

一 劇場ノ賣買讓渡 一 轉居改氏名又ハ廢場

第六條 一時限リ劇場ヲ設クルモノハ此規則ノ限外トス

但興行取締規則ニ準據スヘキモノトス

第七條 此規則第一條第三條第五條ニ違背シ又ハ第四條ノ命ニ從ハサルモノハ刑法第四百二十八  
條第五項ニ依テ處分セラレヘシ

◎群馬縣令第二十二號 明治二十一年三月十九日

人寄定席構造規則別冊ノ通定ム

但明治二十年十一月縣令第二百二十一號寄席取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

人寄定席構造規則

第一條 人寄定席ヲ開設セントスルモノハ其座席ノ圖面及四隣十間以内ノ地主家主並居住人ノ承諾證ヲ添ヘ戶長ノ與書ヲ受ク所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
改造セントスルトキ亦同シ  
但シ承諾證ヲ要セス

第二條 人寄定席ノ構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一 通常出入口ノ外非常口一ヶ所以上ヲ設ク其間口ハ六尺以上ニシテ扉ハ外開キ若クハ引戸ニス

ヘシ

一 二階ヲ人寄定席ニ用ユルトキハ幅四尺以上ニシテ裏板ヲ張リタル堅牢ノ階子二個以上ヲ設ク

ヘシ

一 座席ハ充分光線ヲ取り空氣流通ニ便ナル構造ニスヘシ

第三條 人寄定席落成ノ上ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第四條 前條ノ場合ニ於テ警察官ハ其構造衛生上ニ害アリ危險ノ虞アリト認メタルトキハ其全部若クハ幾部ノ改造ヲ命スルコトアルヘシ席主ハ之レヲ拒ムコトヲ得ス

第五條 左ノ場合ニ於テハ戶長ノ與書ヲ受ク所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

但第一項ハ賣買讓渡主双方ノ連署ヲ要ス

一 人寄定席ノ賣買讓渡 一 轉居改氏名又ハ廢席

第六條 一時間リノ人寄席ヲ開設セントスルモノハ此規則ノ限外トス

但興行取締規則ニ準據スヘキモノトス

第七條 本則第一條第三條ニ違背シ及第四條ノ命ニ從ハサルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第八條 本則第五條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

◎群馬縣令第十三號 明治二十一年三月五日

明治廿年十一月群馬縣令第百廿號興行取締規則別冊ノ通改正ス

但之レニ抵觸スル諸規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

興行取締規則

第一條 本則ニ於テ興行トハ角觥、歌舞妓、狂言、俄狂言、軍談、講釋、落語、淨瑠璃、唄、音曲、能謠曲、獅子舞、人形遣、寫繪、曲馬、手品、輕業、獨樂廻、祭文讀、競馬、擊劍、等ノ技藝ヲ演シ若クハ天造人造ノ觀物、視目鏡、等ヲ總稱ス

第二條 演藝興行ヲ爲サントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ藝人ノ鑑札ヲ添ヘ興行地戶長ノ與印ヲ受ク所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受ヘシ其願面ヲ變更セントスルトキ亦同シ

- 一 藝題及所作ノ趣旨要領
- 一 興行ノ種類場所並月日時
- 一 興行ノ地主又ハ家主(官有共有ナレハ其管理者)ノ承諾證
- 一 木戸錢場代又ハ席料ノ定額
- 第三條 觀物興行ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ興行地戸長ノ興印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受ケヘシ其願面ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 一 觀物ノ種類及開設場並月日時
- 一 木戸錢場代見料ノ定額
- 一 開設地ノ地主又ハ家主(官有共有ナレハ其管理者)ノ承諾證
- 第四條 金錢ヲ收入セス公衆ニ縱覽縱聽セシメントスル興行ハ前二條(戸長ノ興印ヲ除ク)ノ手續ニ從ヒ一切金錢ヲ收メサルコトヲ明記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 但木戸錢場代見料ニアラスシテ火鉢蒲團下足料等ノ名義ヲ付スルモ仍前第二條第三條ニ依ル
- 第五條 興行ヲ中止日送セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第六條 興行主ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
  - 一 興行場ハ空氣ノ流通ヲ便ニシ且通常口ノ外應分ノ非常口ヲ設クル事
  - 二 興行中ハ適宜ノ防火具ヲ備置ク事
  - 三 場内見透ニ便ナル場所ニ警察官吏ノ臨監席ヲ設クル事
  - 四 興行中便所ハ毎日掃除シ且時々防臭藥ヲ撒布スル事
  - 五 客席ハ方六尺ニ付十四人以上ヲ入ラシメサル事

- 但十二歳未満ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歳未満ノ者ハ員外トス
  - 六 假小屋ニ係ルニ階棧敷ハ方六尺二十人以上ヲ入ラシメサル事
  - 七 興行時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトスル事
  - 八 獐猛ノ禽獸等ヲ觀物ト爲ストキハ其逃逸ト看客ノ危險ヲ防クニ足ルヘキ柵欄ノ類ヲ設クル事
  - 第七條 興行場ニ於テハ左ノ事項ヲ禁止ス若シ之ニ違ヒ制止ヲ肯セサルモノハ興行ヲ停止ス
    - 一 倫理ヲ轉倒シ正邪ヲ紊ルノ技藝ヲ演シ若クハ言語行爲ノ猥褻ニ涉ル事
    - 二 看客ヲシテ藝人ノ化粧場樂屋等ニ入ラシメ又ハ藝人ヲシテ看客ノ座席ニ入ラシムル事
    - 三 客席ヲ暗黒ニスル事
    - 四 無籠ノ燈火ヲ用ユル事
    - 但釣火差出スハ此限ニアラス
    - 五 何等ノ名義ヲ以テスルモ看客ニ對シ濫リニ出金ヲ促シ又ハ鬪ヲ賣ル事
    - 六 不具ノ人体又ハ醜猥ノ行爲或ハ惡臭ヲ發スル物件ヲ觀物ト爲ス事
  - 第八條 興行場ニ關スル一切ノ事ハ興行主其實ニ任ス
  - 第九條 本則第二條ノ允許ヲ受ケズ第四條ノ届出ヲ爲サスシテ興行シタル者及第六條ニ違ヒ督促ヲ受ケテ肯セサルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
  - 但刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ從フ
- 群馬縣訓令甲第三百三十四號 明治廿二年十一月廿一日 警察署 警察分署



觀物與行人ニ於テ禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ噉嚼シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スルカ如キハ風俗上最モ厭フヘキモノニ付自今右等ノ技ヲ演セントスルモノアラハ嚴ニ制禁スヘシ

●群馬縣甲第十一號 明治十年五月三日

近來臨時角力芝居等願出免許ヲ受ケ興行候節其願人共居村並ニ近傍村落其他惡意先等手拭又ハ風呂敷ノ類ヲ配賦シ來觀ヲ乞候風儀有之趣右ハ其配賦人他人ノ來觀ヲ強誘スル趣意ニ出ル儀ニテ不宜風儀ニ有之以來右等ノ所業不相成候條此旨布達候事

●群馬縣令第六十號 明治二十七年十一月二十八日

明治二十年(十一月)群馬縣令第二百二十三號遊技場營業取締規則左之通改定ス

遊技營業取締規則

第一條 此規則ニ於テ遊技營業ト稱スルハ大弓、半弓、揚弓、室内射的銃、(空氣銃モ包含ス)玉突、

玉擲、玉轉、投扇籠、鞠投、蹴鞠、打球、吹矢、借馬、等ヲ以テ金錢ヲ收受シ客ノ遊戯ニ供ス

ルモノヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ其遊技ノ種類住所氏名年齢等ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ

大弓、半弓、室内射的銃、打球、借馬、等ハ一定ノ營業場所ヲ設ケ其場所構造ノ圖面ヲ添フヘシ其他ノ遊技ト雖モ危險ノ虞アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ其營業場所及構造等ヲ定

メシムルコトアルヘシ

第三條 前條二項ノ營業者ハ其營業場所構造落成ノ上所轄警察官署ニ届出テ検査ヲ受クヘシ其改造シタルトキ又同シ

第四條 第二條二項ノ營業ニ於テ臨時營業場所外ニ於テ營業セントスルトキハ其場所及構造ノ圖面ヲ添ヘ其地所轄ノ警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第五條 第二條二項ノ營業者ハ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

一流矢流丸ヲ防ク可キ堅牢ノ射場ヲ設クヘシ

一射的ノ距離ハ四間以上十五間以下タルヘシ

一雷管ハ射的場ニ於テ消費スル外決シテ他人ニ轉賣讓與シ又ハ射擊人ヲシテ他ニ持出サシムヘシ

カラス

一些少ト雖モ破損ノ銃器ハ使用セシムヘカラス

一射術ヲ知ラサル者ニハ其方法ヲ教ヘタル後ニアラサレハ發射セシムヘカラス

一打球、及借馬馬場、ハ堅牢ナル塙圍ヲ設ケ馬ノ奔逸ヲ防シヘシ

一白痴瘋癲醉人幼兒等失誤ヲ生スヘキ恐アル者ニ射擊又ハ乘馬セシムヘカラス

第六條 遊技ハ其名稱ノ何タルヲ問ハス富籤賭博等ニ類似ノ方法ヲ用ユヘカラス

第七條 營業者及其雇人等ハ通行人ニ對シ遊戯ヲ勸メ又ハ來客ニ對シ猥褻ノ所行ヲナスヘカラス

第八條 營業者ハ營業中常ニ免許證ヲ携帯スヘシ

第九條 營業時間ハ日出ヨリ夜十二時ヲ限リトス

第十條 廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ改氏名轉居又ハ免許證ヲ遺失毀損シタルトキ又同シ

第十一條 第三條第四條第五條第八條第九條第十條ニ違背シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス第二條第六條第七條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●群馬縣令第二百二十二號 明治二十年十一月三十日

遊藝稼業人取締規則左ノ通相定ム

但明治二十年(十月)本縣甲第四百四十四號布達祭文讀規則及同十五年(七月)甲第五十號布達ヲ廢止ス

遊藝稼業人取締規則(廿一年縣令十四號ニテ七條ヲ五條トシ四條六條以下改正)

第一條 遊藝稼業ト稱スルハ俳優、講談、落語、淨瑠璃、歌舞、音曲、寫繪、幻燈、手品、人形遣、假聲、茶番、能狂言、大神樂、獅子舞、萬歲、祭文讀、相撲及行司、幫間、獨樂廻、手踊、足藝、鳥獸遣、輕業曲馬等ノ諸藝ヲ云フ

第二條 遊藝稼業人ハ其營業願ニ稼業ノ種類及藝名住所年齡等ヲ詳記シ其地戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出鑑札ヲ受ケ可シ

但廢業シタルトキハ本條ノ手續ニ依リ届出鑑札ヲ返納ス可シ

第三條 左ノ場合ハ第二條ノ手續ニ依リ書換ヲ請フ可シ

但第二項ハ戸長ノ與印ヲ要セズ

一 改氏名轉居其他鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

一 鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第四條 遊藝稼業人ハ左ノ事故ヲ演藝スヘカラス

一 倫理ヲ顛倒シ正邪ヲ紊リ若クハ言語行爲ノ猥褻ニ涉ル事

二 演劇類似ノ所作

第五條 稼業ノ節ハ常ニ鑑札ヲ携帶シ警察官吏ニ於テ見ノコトヲ求メタルトキハ之ヲ示ス可シ

第六條 本則第二條第四條ニ違背シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七條 本則第二條但書第三條ニ違背シ及第五條ニ違背シ請求ニ肯セサル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

●群馬縣令第六十四號 明治卅三年七月三日

明治二十七年(五月)縣令第三十號藝妓取締規則左ノ通り改定ス

藝妓營業取締規則

第一條 藝妓營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ

一 族籍住所身分氏名年齢及藝名

二 戸主ノ承諾書

但シ妻ナルトキハ夫、未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父又ハ母若ハ後見人ノ承諾書ヲ添フヘシ

第二條 藝妓營業者廢業轉居改氏名又ハ藝名ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

藝妓營業者死亡シタルトキハ戶籍法第二百六條ニ規定セル順序ノ義務者ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ逃走シタルトキ亦同シ

第三條 藝妓營業時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限トス

第四條 藝妓營業者ハ自宅又ハ宿屋ニ於テ營業シ若ハ自宅ニ客ヲ宿泊セシメ又ハ營業先ニ宿泊スルコトヲ得ス

第五條 藝妓營業者ハ猥褻ノ行爲又ハ風俗ヲ紊ルノ演藝ヲ爲シ若ハ道路、店頭ニ於テ遊興ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第六條 藝妓營業者他ノ地方ヘ旅行セントスルトキハ其事由、行先、旅行日數等ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第七條 藝妓營業者ニシテ密賣淫又ハ其ノ媒介容止若ハ猥褻ノ行爲ニヨリ處罰ヲ受ケ尙ホ風俗ヲ紊ルノ行爲アリト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第八條 本則第一條乃至第六條ニ違背シ又ハ停止中營業ヲ爲シタル者ハ三日以下ノ拘留又ハ壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

營業取締

●群馬縣令第三十六號 明治二十二年四月十五日

明治十七年(十月)甲第八十四號布達湯屋取締規則左ノ通改定ス

湯屋取締規則

第一條 此規則ニ於テ湯屋營業ト稱スルハ洗湯藥湯及冷鑛泉ヲ採酌シテ温浴ニ供シ營業スル者ヲ總稱ス

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ地所建物ノ圖面及浴場煙筒火焚室構造ノ仕様書四隣地所建物所有主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出允許ヲ受クヘシ

但藥湯營業ハ其藥劑ニ付テハ賣藥規則ニ據リ別ニ允許ヲ得テ其寫ヲ添ヘ鑛泉營業ハ鑛泉取締規則ニ據リ許可ヲ得タル允許証寫ヲ添付スヘシ

第三條 湯屋ヲ買受讓受營業セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ前營業者ト連署ノ上所轄警察署又ハ警察分署ニ願出允許ヲ受クヘシ

第四條 改氏名若クハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第五條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ允許ヲ與ヘサルモノトス  
但第三項ニ相當スルモノニシテ悛改ヲ情狀顯著ナルトキハ特ニ允許スルコトアルヘシ

一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴瘋癲者

三 盜罪又ハ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者

第六條 左ノ場合ニ於テハ營業允許ノ効ヲ失フ

一 營業人逃亡又ハ死去シ一ヶ月以内ニ更ニ營業ヲ出願セサル時

二 營業用ノ建物亡失シタルトキ

三 後見人逃亡又ハ死亡又ハ辭任シタル場合ニ於テ一ヶ月以内更ニ後見人ヲ立テサル時

四 第五條第三項ニ抵觸シタルトキ

第七條 火焚室ノ周圍ハ石又ハ煉化若クハ漆喰煙筒天井ハ煉化漆喰若クハ金屬ヲ以テ堅牢ニ構造

シ煙筒ノ屋外ニ貫通スル部分ハ其周圍一尺以内ヲ石又ハ煉化漆喰等ニ爲シ六尺以上屋上ニ突出

セシメ其周圍二間以内ハ不燃質物ヲ以テ覆蓋スベシ

第八條 浴場及衣脱場ハ透見セサル様男女ノ境界ヲ設クヘシ

第九條 浴場及火焚室煙筒ニ破損ヲ生シタルトキハ即時修繕ヲ加フヘシ

但變更セントスルトキハ構造ノ圖面及仕様書ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受

クヘシ

第十條 前三條ノ場合ニ於テ構造落成シタルトキハ其時々所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ

受クヘシ其検査ヲ受クサル間ハ營業スルコトヲ得ス

第十一條 浴場並ニ衣脱場ハ外見ヲ防シ爲メ適宜板塀ヲ設クルカ若クハ簾等ヲ掛ク置クヘシ

第十二條 營業者ハ必ラス火消所及灰置場ヲ設クヘシ

但其構造ハ深サ三尺以上ノ坑穴ヲ穿テ其蓋ハ不燃質物ヲ以テ之ヲ造ルモノトス

第十三條 火消所及灰置場ノ近傍ニ燃質物ヲ置クヘカラス

第十四條 焚火ヲ終ル毎ニ消炭ハ火消所灰ハ灰置場ニ入レ火氣全ク消盡シタル後ニアラサレハ坑

外ニ出スヘカラス

第十五條 焚物其他ノ燃質物ハ常ニ火焚室ニ積置クヘカラス

第十六條 火焚所煙筒天井裏ノ煤塵ハ毎月一回以上掃除スヘシ

但其期日ハ豫メ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十七條 浴場衣脱場其他衣類入物等ハ時々清潔ニ掃除スヘシ

第十八條 入浴料等ハ勿論鑛泉藥湯ハ其種質効能ヲ浴客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十九條 浴場ニハ必ス上リ湯及飲料水ヲ備置クヘシ

但飲料水ハ汚水ノ侵入セサル處ニ置キ蓋ヲ設クヘシ

第二十條 湯ノ温度ハ攝氏四十三度以上華氏百九十四度以上ニ騰スヘカラス

第二十一條 夜間十二時后ハ入浴ヲ止ムヘシ

但烈風ノトキハ時間ニ拘ハラズ焚火ヲ止ムヘシ

第二十二條 男女混浴セシムヘカラス

但十二歳未満ノ幼者ハ此限ニアラス

第二十三條 來客中瘋癲又ハ醉狂人ト認ムルトキハ入浴セシムヘカラス

第二十四條 浴客中放歌高聲スル者アルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 浴客ノ衣類携帶品履物等ハ紛失セサル様注意スヘシ

第二十六條 浴客ノ遺留品アリタルトキハ其旨客ノ見易キ場所ニ揭示シ三日以内ニ物主知レサルトキハ所轄警察署又ハ警察分署若クニ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第二十七條 警察官ニ於テ浴場其他ノ構造不完全又ハ腐朽頽敗等危険ノ虞アルカ若クハ風俗衛生上ニ害アリト認ムルトキハ改造又ハ修繕ヲ命スルコトアルヘシ

第二十八條 本則第二條第三條第十條第十三條第十四條第十五條第二十一條「第二十二條」第二十三條ニ違背シタル者第九條ニ違ヒ督促ヲ受クルモ猶修繕セサル者第二十六條ノ届出ヲ爲サ、ル者第十一條第十二條第十六條ニ違ヒ督促ヲ受ケテ命ニ從ハサル者第二十條ニ違ヒ制止ヲ肯セサル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十九條 本則第四條第十七條第十八條第十九條ニ違ヒ督促ヲ受ケ命ニ從ハサル者ハ八拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第三十條 本則第四條第十條第二十六條ノ届出ハ便宜口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本則第七條第十九條ノ規程ハ市街地以外ノ營業者ニハ之ヲ適用セス

●群馬縣令第三十八號 明治三十二年九月十八日

明治二十五年(十月)群馬縣令第六十三號宿屋取締規則左ノ通告定ス

宿屋營業取締規則

第一章 通 則

第二條 宿屋營業ヲ分ツテ旅人宿下宿屋及木賃宿ノ三種トス

第三條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ

一 族籍住所氏名年齢並商號屋號アルモノハ其商號屋號

二 營業ノ種類及場所

三 營業用家屋ノ構造及其圖面(間取坪數及階子ノ位)

第三條 營業用ノ家屋ヲ増築シ又ハ客室ヲ改造若クハ變更セントスルトキハ其工事着手前落成後所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

但検査ヲ受ケサルモノハ營業用ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 宿屋營業者ニシテ飲食店營業ヲ兼ヌルトキハ宿屋用客室ニ飲食店ノ來客ヲ入ラシムルコトヲ得ス

但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス(卅三年縣令六十八號ニテ追加十一條迄順次繰下及卅三年縣令六十八號ニテ十二條二十九條削除)

第五條 營業者族籍氏名商號屋號ニ異動ヲ生シ又ハ轉住廢業代替リ若クハ後見人ヲ變換シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

但轉住ノ場合ハ第二條第二號第三號ノ事項ヲ具シ検査ヲ受クヘシ

第六條 營業者ハ其種類住所商號又ハ屋號氏名ヲ明記シタル看板ヲ店頭若クハ門戸ニ掲出スヘシ

但夜間ハ標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

第七條 婦女ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ三日以内ニ所轄警察官署又ハ巡查派出所巡查駐在所ニ届出スヘシ

第八條 腐敗ニ傾キ又ハ健康ニ害アル飲食物ヲ宿泊人ニ供スヘカラス

第九條 銅鑄製ニシテ錆ノ發生ヲ防クニ足ラサル器物ハ煮沸又ハ飲食用ニ供スヘカラス

第十條 宿泊人ニ酒宴遊興ヲ勸メ又ハ其需メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十一條 客引ニ出テ又ハ客引ヲ出シ若クハ他人ト結托シテ客引ヲ爲スヘカラス

第十二條 宿泊人ノ承諾ヲ得サレハ來訪者又ハ商人等ヲ濫リニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第十三條 宿料ノ抵償トシテ衣類其他ノ携帶品ヲ受領シ又ハ質入賣買等ノ媒介ヲ爲スヘカラス若シ止ムヲ得サル場合アルトキハ所轄警察官署又ハ巡查派出所巡查駐在所ニ申告シテ其承認ヲ受

クヘシ

第十四條 宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫療藥餌等其需メニ應シ懇切ニ取扱フヘシ

第十五條 宿泊人變死傷又ハ盜難等ニ罹リタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十六條 宿泊人及下宿人ノ着發ハ別紙第一號第二號様式ニ依ヒ所轄警察官署又ハ巡查派出所巡查駐在所ニ届出ヘシ

但警察官署又ハ巡查派出所巡查駐在所々在地外ノ營業者ハ便宜巡廻ノ警察官吏ニ届出ルコトヲ得

前項 届書ハ午後十二時迄ニ差出シ午後十二時後ニ係ルモノハ翌日午前九時迄ニ差出スヘシ  
華族文武官吏帝國議會議員商業會議所議員外國公使館員領事館員官立府縣立學校教員ハ其僑位官職氏名又軍隊ハ隊名及人員教員役員等ノ引率セル學校生徒ハ其校名引率者ノ氏名及人員ヲ記載シ他ハ省略スルコトヲ得

第一項ニ依リ届出ヲ要スル事項ヲ宿泊人ニ記載セシメントスルトキハ第三號用紙ヲ其宿泊人ニ交付スヘシ

邦語ニ通セサル外國人ニ用紙ヲ交付スルトキハ其用紙ハ第四號様式ニ依ヒ原語ヲ以テシタルモノニ限ル此場合ニ在テハ宿泊人記載ノ儘届書ニ代ヘ差出スコトヲ得

第十七條 浴室廁間等ハ常ニ清潔ニ掃除スヘシ

### 第二章 旅人宿

第十八條 旅人宿トハ宿料ヲ定メ人ニ宿泊セシムルモノヲ謂フ

第十九條 客室ハ空氣ノ流通ヲ良クシ出入口ハ便利ニシテ危害ナキ設備ヲ爲スヘシ

第二十條 客室ニハ堅固ナル錠前付押入戸棚又ハ簞笥ノ類ヲ備ヘ置クヘシ

但錠前ハ各其鍵ヲ異ニスヘシ

第二十一條 二階以上ノ客室ヲ設クルトキハ其坪數十五坪餘アルモノハ可成二箇以上ノ昇降口ヲ設クヘシ  
但階子ハ幅三尺以上ニシテ裏板ヲ張ルヘシ

第二十二條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設クヘシ

但構造ハ下水溝并溜厠圍構造取締規則ニ據ル

第三章 下宿屋

第二十三條 下宿屋トハ食料又ハ座敷料ヲ定メテ人ヲ寄寓セシムル營業ヲ謂フ

第二十四條 本則第十九條第二十一條第二十二條ハ下宿屋營業者ニモ之ヲ適用ス

第二十五條 營業者ハ下宿人ノ氏名ヲ明記シ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第二十六條 下宿人外泊三日以上ニ及ヒ其所在不明ナルトキハ速ニ所轄警察官署又ハ巡查派出所

巡查駐在所ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第二十七條 木賃宿トハ炭薪料等ヲ定メ人ヲ宿泊セシムル營業ヲ謂フ

第二十八條 本則第十九條第二十一條第二十二條ハ木賃宿ニモ之ヲ適用ス

(様式器之)

●群馬縣訓令甲第七十號 明治三十二年七月十五日

警察署 警察分署

今般内務省令第三十二號ヲ以テ宿泊届其ノ他ノ件相定メラレ候ニ付取締方左ノ通心得ヘシ

一 省令第二條第三條第四條第七條ニ關スル届出等ノ様式ハ別紙第壹號乃至第四號ニ據ル

二 省令第二條ニ於テ營業者ノ請求アルトキハ宿泊者ニ第一條届出事項ヲ用紙ニ記載スルノ義務

ヲ負ハシメタリト雖宿泊者ニ繁雜ノ思ナカラシムルカ爲メ營業者ヲシテ記載セシムルヲ例ト

スヘシ若シ邦語ニ通セサル外國人ニ用紙ヲ交付スルトキハ其用紙ハ記載事項ヲ原文ニテ認メ  
タルモノニ限ルヘシ此場合ニ於テ宿泊者記載ノ儘警察署ニ差出サシムルコトヲ得

三 宿泊者届並外國人登録簿中外國人ノ氏名外國ニ於ケル地名等ニ原語ヲ付記スルハ便宜ナルヘ

シト雖モ之ヲ省略スルモ妨ケナシ

四 省令第七條ノ登録ハ別紙第二號様式ニ依リ一戸一號トシ僕婢ハ其號内ニ記載スヘシ後日其家

族又ハ僕婢トナリタルモノアルトキハ順次其號内ニ記載スルモノトス

但シ記載事項各人同一ナルトキハ之ヲ省察スルモ妨ケナシ

外國人登録簿ニハ索引ヲ付スヘシ

五 甲警察官署所轄内ヨリ乙警察官署所轄内ニ移轉シアルモノアルトキハ相互ニ通知スヘシ

六 省令第八條ニ依リ外國人登録簿ノ謄本若クハ抄本ヲ交付スルトキハ警察署長又ハ分署長ニ於

テ官氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スヘシ

七 戸口調査ハ省令第九條ニ依リ施行スルノ途開ケタリト雖抑戸口調査ノ目的ハ實際ノ視察ヲ爲

スニアレハ之レカ爲メ人民ニ煩ヲ感セシムルカ如キコトナキ様注意スヘシ

八 戸口調査ニ依リ戸口ニ關スル届出ヲ怠ルモノアルコトヲ發見スルモ其正當ノ事由アリト認ム

ルモノハ可成將來ヲ訓戒スルニ止メ懇篤ノ取扱ヲ爲スヘシ

九 警察官署ハ外國人登録簿ノ外別紙第五號様式ノ視察簿ヲ備ヘ取締上注意スヘキ事項ヲ詳記シ

置クヘシ

(様式零之)

●群馬縣令第三十四號 明治二十二年四月十二日

明治十四年十二月甲第七十二號布達雇人請宿規則別冊之通改定ス

雇人受宿取締規則

第一條 本則ニ於テ雇人受宿ト稱スルハ雇期限及雇給金ノ有無ヲ問ハス雇主及雇人タラントスルモノ、需メニ應シ手数料(報酬モ)ヲ得テ雇人ノ口入ヲ爲シ營業スル者ヲ云フ

第二條 雇人受宿營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出允許ヲ受クヘシ

第三條 營業者ニ於テ轉居改氏名又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ其旨所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第四條 左ノ事項ニ觸ル、モノハ允許ヲ與ヘス其允許ノ後ト雖モ各項ニ抵觸シタルトキハ允許ノ効ヲ失フモノトス

但第三項ニ相當スルモノニシテ悛改ノ情狀顯著ナルトキハ特ニ允許スルコトアルヘシ

一人ノ保証ニ立ツヘキ相當ノ資産ナキ者

一同居ノ後見人ナキ未丁年者及白痴瘋癲者

一重罪窃盜詐欺取財贓物ニ關スル罪若クハ略取誘拐ノ罪ヲ犯シタル者

一風俗ヲ紊ルヘキ懼アリト認ムヘキ者

第五條 營業者ハ店頭ニ左ノ看板ヲ掲クヘシ

警察署分署烙印 警察署鑑帳番號ヲ記ス

□ 番 號	.....
○ 雇 人 受 宿 營 業	
郡 町 村	何 誰

壁 曲 尺	三 尺 六 寸
巾 全	八 寸
木 製	木 質 適 宜

第六條 營業者ハ口入雇人名簿ヲ製シ置キ雇人ヲ口入シタル毎ニ左ノ事項ヲ記載シ以後異動アル毎ニ訂正スヘシ

但口入雇人名簿ハ初葉ニ紙數ヲ記載シ豫メ所轄警察署又ハ警察分署ノ檢印ヲ受クヘシ

一雇人ノ族籍氏名年齢

一雇主ノ住所氏名

一給金額及雇期限

一受入アルトキハ其族籍住所氏名

一身元ヲ証明スヘキ公正ノ証書ニ依リ口入シタルトキハ其証書ヲ發付セシ官衙名及証書ノ要領一右ノ外契約セシ事項ノ要領

第七條 前條ノ帳簿ハ使用ヲ了リタル後一年間保存スヘシ

但記載シタル雇人中雇期限内ノ者アルトキハ其期限ヲ終ルマテ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス

第八條 左ニ列記シタルモノハ口入スヘカラス

一父母又ハ後見人ノ承諾ナキ幼年者

一本夫ノ承諾ナキ有夫ノ婦

一族籍氏名ヲ熟知セサル者



但雇人タラントスルモノ、身元ヲ熟知スル身元慥カナル下受人アルカ又ハ身元ヲ証明スヘキ公正ノ証書ヲ有スルモノハ此限ニアラス

一他ニ雇主アリテ未タ解雇セラレサル者

第九條 雇人タラントスル者ニシテ懷胎又ハ癩疔病アルコトヲ隠蔽シテ口入スヘカラス

第十條 口入セントスル雇人ノ性質技藝等ハ眞實ニ雇主ニ申告スヘシ

第十一條 營業者ハ口入ノ手数料ヲ定メ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十二條 營業者ハ前條手数料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ雇主又ハ雇人ニ對シ金錢物品ヲ請求シ若クハ申受クルコトヲ得ス

第十三條 雇主又ハ雇人ノ都合ニ依リ雇期限中解雇スルコトアルモ給金ノ受渡返却及手数料ノ償却等ニ關シ故障ヲ生セサル様口入シタルトキ營業者立會雇主雇人間ニ契約ヲ爲サシメ置クヘシ

第十四條 營業者ハ雇人タラントスルモノヲ自家ニ宿泊セシムルコトヲ得ス

第十五條 雇人ノ身上ニ關シ警察官吏ヨリ尋問セルコトアルトキハ誠實ニ答陳シ且其事項ヲ他ニ洩泄スヘカラス

第十六條 營業者ハ雇人ト申合セ若クハ雇主雇人ヲ欺キテ雇主ヲ轉換セシメ或ハ藝娼妓タルノ誘導媒介周旋ヲ爲スヘカラス

第十七條 口入シタル雇人満期後雇主ト相互ノ契約ヲ以テ引續キ雇ハル、者ハ營業者ハ之レニ關係スヘカラス

第十八條 口入シタル雇人ニシテ雇期限中逃亡スルカ若クハ故意ヲ以テ雇主ニ損害ヲ與ヘタルトキ雇主ヨリ請求アルトキハ營業者ハ其損害ヲ辨償スルノ義務アルモノトス其廢業ノ後ト雖モ雇期限内ナルトキ亦同シ

第十九條 口入シタル雇人ニシテ疾病ニ依リ使用ニ堪ヘサル場合ニ於テ他ニ引受人ナキトキハ營業者ハ雇主ノ請求ニ應シ之ヲ引受ルノ義務アルモノトス其廢業ノ後ト雖モ雇期限内ナルトキ亦同シ

第二十條 營業者ハ宿屋營業ヲ兼業スルヲ許サス  
但土地ノ情況ニ依リ特ニ允許ヲ與フルコトアルヘシ

第二十一條 本則第二條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十四條第十五條第十六條第十七條第十九條ニ違犯シ又ハ第三條第五條ニ違ヒ督促ヲ受クルモ猶ホ其命ニ從ハサルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニヨリ刑ヲ科スヘシ

附 則

第二十二條 本則第二條第三條ノ願届ハ便宜口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

●群馬縣令第六十三號 明治三十三年七月三日

明治二十六年(十月)縣令第四十二號飲食店取締規則左ノ通改定ス

第二條 飲食店營業取締規則

第一條 本則ニ於テ飲食店營業者ト稱スルハ客室ヲ設ケ來客ニ飲食物ヲ供スルヲ營業ト爲ス者ヲ

謂フ

第二條 飲食店營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

一 族籍住所身分氏名年齢及屋號

二 家屋ノ間取坪數及自用室客室ノ區別ヲ記シタル圖面

但シ出願者宿屋營業者ナルトキハ宿屋用客室飲食店用客室ノ區別ヲ記入スヘシ

第三條 營業ノ廢止又ハ前條事項ノ異動ハ飲食店營業者ヨリ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

但シ前條第二號異動ノ場合ハ圖面ヲ添付スヘシ

營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

但シ死亡者非戸主ナルトキハ其ノ死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

第四條 飲食店客室ノ出入口ニハ内部ヨリ戸締ヲ施スコトヲ得ス

飲食店客室ニ架スヘキ階子ニハ裏板ヲ張ルヘシ

第五條 飲食店營業時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限トス

第六條 飲食店營業者ハ來客ヲ自用室ニ入ラシメ又ハ來客ノ衣服其ノ他ノ物品ヲ酒食料ノ擔保ト

シテ受領スルコトヲ得ス

但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第七條 飲食店營業者ハ來客又ハ藝妓ヲ宿泊セシメ若クハ藝妓ヲ同居寄留セシムルコトヲ得ス

第八條 飲食店營業者ハ客引ヲ出シ又ハ飲食遊興ヲ勸誘シ若クハ來客ノ求メナキ飲食物ヲ供スル

コトヲ得ス

第九條 飲食店營業者ニ於テ婦女ヲ雇入(俗ニ目見又ハ試ミ等ト稱スルモノヲ包含ス)レタルトキ

ハ其族籍身分氏名年齢ヲ記シタル書面ニ戸主ノ承諾書ヲ添ヘ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘ

シ

但シ雇入婦女ニシテ妻ナルトキハ夫、未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父又ハ母若ハ後見人ノ

承諾書ヲ添フヘシ

婦女ヲ解雇シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 飲食店營業者ニ於テ家族ノ婦女ヲ客席ニ出サムトスルトキハ其身分氏名年齢ヲ記シ所轄

警察官署ニ届出ヘシ

第十一條 飲食店營業者ニ於テ婦女三人以上ヲ雇入レムトスルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ク

ヘシ

客席ニ出ス家族ノ婦女並雇婦女ヲ合セ三人以上トナルトキ亦前項ニ同シ

第十二條 密賣淫又ハ其ノ媒合容止若クハ猥褻ノ行爲ニヨリ所罰セラレタル婦女ハ所轄警察官署

ノ認可ヲ受クルニアラサレハ客席ニ出シ又ハ雇入ル、コトヲ得ス

第十三條 密賣淫又ハ其ノ媒合容止若クハ猥褻ノ行爲ニヨリ所罰セラレタル婦女ニシテ尙ホ風俗

ヲ紊ルノ行爲アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ其ノ婦女ヲ客席ニ出スコトヲ禁シ又ハ解

雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 飲食店營業者ハ家族ノ婦女又ハ雇婦女ヲシテ左ノ行爲ヲナサシムルコトヲ得ス

一 店頭其ノ他通行人ノ眼ニ觸レ易キ場所ニ坐列スルコト

二 來客ヲ屋外ニ送迎シ又ハ來客ニ隨伴シテ外出スルコト

三 客席ニ於テ歌舞音曲ヲ爲スコト

四 猥褻ノ行爲ヲ爲スコト

飲食店營業者婦女ナルトキハ前項各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 飲食店營業上公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊リ若クハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムル

トキハ營業ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十六條 飲食店營業上ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第十七條 飲食店營業者ノ家族ノ婦女又ハ雇婦女ニシテ本則第十四條第一項各號ノ行爲アリタル

トキハ三日以下ノ拘留又ハ壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十八條 本則施行前ニ於テ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケタル婦女ト雖本則第十一條ノ制限ヲ超ユ

ルモノハ明治三十三年七月三十一日限り飲食店營業者ニ於テ更ニ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケハ

シ

◎群馬縣令第五十二號 明治二十八年八月二十九日

古物商取締法施行規則左ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行ス

但明治十七年二月甲第七號布達古物商取締條例細則ハ廢止ス

古物商取締法施行規則

第一條 古物商取締法第二條及第四條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署

ニ願出ヘシ

一 族籍住所氏名年齢並從前ノ職業

一 族籍住所氏名ニ異動アリタル者ハ舊族籍住所氏名並現住地ニ移轉シタル年月日

一 營業物品ノ種類

一 營業所又ハ店舗ノ所在地

免許ヲ受ケタル警察官署管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケントスルトキハ更ニ其地警

察官署ニ届出ヘシ

第二條 營業物品ノ種類ヲ増加シ又ハ變更セントスル者ハ其種類ヲ記シ所轄警察官署ニ願出ヘシ

營業物品ノ種類ヲ減少シタルトキハ其種類ヲ記シ十日以内ニ届出ヘシ

第三條 古物商取締法細則第三條ノ届書ニハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ差出ヘシ

一 管理人ノ族籍住所氏名年齢並從前ノ職業並古物商取締法第十五條ニ抵觸セサルモノタルコト

一 管理セシムヘキ營業所又ハ店舗

管理人ノ族籍住所氏名ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第四條 營業者ハ第一號様式ニ據リ看板ヲ調製シ營業所又ハ店舗ノ見易キ場所ニ掲出スヘシ

第五條 營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製シ第二號乃至第四號様式ニ據リ物品ノ種類品質摸樣員數代價番

號年月日並賣却交換等ニ關スル事項ヲ詳記シ其出入ヲ明ニスヘシ

一物品買入讓受明細帳

一物品賣却讓渡明細帳

一物品預リ明細帳

行商露店又ハ市場ノ取引ニ用ユル帳簿ハ前項ニ準據シ別ニ之ヲ調製スルコトヲ得

第六條 帳簿ハ新調若クハ變換ノ都度紙數ヲ記シ所轄警察官署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ(三十二年  
縣令二十

號ニテ第  
一項削除

帳簿廢棄ノ許可ヲ受ケントスル者ハ所轄警察官署ニ願出ヘシ

第七條 品觸寫書ハ番號ヲ追ヒ順次ニ編號スヘシ

第八條 古物商取締法細則第八條ニ據リ鑑札ヲ受ントスルトキハ願書ニ自己家族又ハ雇人ノ別ヲ

詳記シ第五號様式ノ木札ヲ添ヘ所轄警察官署ニ差出シ木札ニ檢印ヲ受クヘシ

露店鑑札ハ店頭ニ標出スヘシ

鑑札面記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ鑑札ヲ亡失毀損シタルトキハ其事由ヲ記シ第一項ノ手續ニ

依リ五日以内ニ更正又ハ新木札ニ檢印ヲ願出ヘシ

行商露店ヲ廢シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ鑑札ヲ差出シ檢印ノ消除ヲ請フヘシ

第九條 古物商取締法第七條ノ場合ニ於テ警察官ノ認可ヲ受ケントスルトキハ現品携帶賣主讓主

ヲ同行スヘシ

第十條 物品ノ買受讓受交換又ハ依托ヲ受クルニ當リ傳染病毒ニ汚染シ未タ消毒セサル疑アルモ

ノヲ發見シタルトキハ直チニ警察官ニ申告スヘシ

第十一條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣渡讓渡又ハ交換シタルトキハ同業者ニアラサル場合

ニ限り其種類及買受讓受交換人ノ住所氏名ヲ即日警察官ニ申告スヘシ

第十二條 古物商取締法第三條第四條第二項及古物商取締法細則第四條第七條第九條第十一條ノ

願届書ハ所轄警察官署ニ差出ヘシ

但營業廢止ノ際ハ免許證ヲ返納スヘシ

第十三條 營業者組合ヲ設ケタルトキハ加名者及取締ノ氏名ヲ記シ組合規約書ヲ添ヘ所轄警察官

署ニ届出ヘシ其増減變更シタルトキ亦同シ

第十四條 第一條第二項第二條第二項第三條第二項第四條第五條第六條第一項第二項第七條第八

條第二項第三項第四項第十條第十一條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以

上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十五條 從來ノ古物商營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄從前使用ノ帳簿ヲ襲用スルコト

ヲ得

第十六條 從來ノ行商又ハ露店營業者ニシテ新法ニ遵ヒ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ明治二十

第十七條 從來ノ古物市場ヲ繼續セントスル者ハ古物商取締法細則第九條ニ依リ更ニ規約ヲ定メ  
明治二十八年九月十五日迄ニ所轄警察官署ニ願出認可ヲ受クヘシ

(様式略之)

●群馬縣訓令甲第八十七號 明治二十八年九月二日

警察署 警察分署

古物商取締法令取扱手續左ノ通相定ム

但明治十七年二月戊第七號古物商取扱手續ヲ廢止ス

古物商取締法令取扱手續

第一條 古物商取締法第二條及第四條ニ依リ營業免許ヲ願出タルトキハ同法第十五條ニ抵觸スル  
者ニアラサルヤ否ヤ等ヲ調査シ不都合ナキ者ハ第一號様式ノ免許証ヲ下付スヘシ

第二條 營業物品種類ノ増加又ハ變更ヲ許可シタルトキ及營業物品種類減少ノ届出ヲ受ケタルト  
キハ免許証ヲ差出サシメ訂正ノ上下付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ管轄以外ノ地ニ營業所又ハ店舗ヲ有スル者ハ其地警察官署ニ通知スヘシ

第三條 古物商取締法令施行規則第六條ニ依リ帳簿ニ檢印ヲ願出タルトキハ紙數記載ノ傍ラニ

「何年何月何日檢査」ト記入シ署長認印ヲ爲スヘシ

帳簿ノ廢棄ヲ許可シタルトキハ第二號様式ノ許可証ヲ下付スヘシ

第四條 行商及露店鑑札ノ檢印ハ所轄警察官署ノ烙印ヲ押捺スヘシ

第五條 古物商取締法第四條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其品目ニ照ラシ現品ノ檢査ヲ爲スヘシ

第六條 古物商取締法第七條ノ場合ニ於テ認可ヲ與ヘタルトキハ第三號様式ノ認可証ヲ下付スヘシ

シ

第七條 古物商取締法令施行規則第十一條ノ申告ヲ受ケタルトキハ物主ニ命シ直チニ消毒法ヲ施  
スルヲ命スヘシ

第八條 古物商取締法令施行規則第十一條ノ申告ヲ受ケタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ調査シ買受  
讓受交換人ノ身元及其目的用途ヲ明ニスヘシ

第九條 古物商取締法第十四條ノ處分ヲ必要ト認メタルトキハ禁止又ハ停止ニ關スル意見ヲ詳悉  
シ上申スヘシ

營業禁止ヲ解クコトヲ必要ト認メタルトキ亦同シ

第十條 古物商營業禁止者名簿ヲ調製シ官報ノ登載ニ基キ第四號様式ニ依リ全國營業者ノ禁停  
止ヲ明記スヘシ

解禁滿期其他異動ヲ生シタルトキハ時々訂正ヲ爲スヘシ

(様式略之)

●群馬縣令第五十三號 明治二十八年八月二十九日

質屋取締法令施行規則左ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行ス

但明治十七年四月甲第三十一號布達質屋取締條例細則ハ廢止ス

質屋取締法令施行規則

- 第一條 質屋取締法第一條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出ヘシ  
但支店開設ノ願書ニハ住所氏名及支店所在地ノ外記載スルヲ要セス  
一 族籍住所氏名年齢並従前ノ職業  
一 族籍住所氏名ニ異動アリタル者ハ舊族籍住所氏名並現住地ニ移轉シタル年月日  
一 店舗ノ所在地  
一 廢業シタルトキハ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第二條 質屋取締法第二條ノ届書ニハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ差出ヘシ  
一 管理人ノ族籍住所氏名年齢従前ノ職業並質屋取締法第十九條ニ抵觸セサルモノタルコト  
一 管理セシムヘキ支店  
一 管理人ノ族籍住所氏名ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第三條 營業者ハ第一號様式ニ據リ看板ヲ調製シ店頭見易キ場所ニ掲出スヘシ
- 第四條 營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製シ第二號第三號様式ニ據リ物品ノ種類品質摸樣員數番號貸金額  
質入受戻利拂流質賣却年月日並質置主買主ノ住所氏名等ヲ記シ其出入ヲ明ニスヘシ  
一 質物臺帳  
一 流質物賣拂帳
- 第五條 帳簿ハ新調若クハ變換ノ都度紙數ヲ記シ所轄警察官署ニ差出シ捺印ヲ受ケヘシ(廿二年縣  
項削除)

帳簿廢棄ノ許可ヲ受ケントスル者ハ所轄警察官署ニ願出ヘシ

第六條 質札及通帳ハ第四號第五號様式ニ據リ調製スヘシ

第七條 品觸寫書ハ番號ヲ追ヒ順次ニ編綴スヘシ

第八條 質屋取締法第六條ノ事項ハ所轄警察官署ニ届出ヘシ其變更シタルトキ亦同シ

營業組合アルモノハ其組合取締ヨリ届出ルコトヲ得

第九條 質屋取締法第四條ノ場合ニ於テ警察官ノ認可ヲ受ケントスルトキハ現品携帶質置主ヲ同行スヘシ

第十條 質物受取ノ際傳染病毒ニ汚染シ未ダ消毒セサル疑アルモノヲ發見シタルトキハ直チニ警察官ニ申告スヘシ

第十一條 流質ニ係ル刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣渡讓渡シタルトキハ刀劍商ニアラサル場合ニ限リ其種類及買受讓受人ノ住所氏名ヲ即日警察官ニ申告スヘシ

第十二條 質屋取締法細則第三條第六條ノ届書ハ所轄警察官署ニ差出ヘシ

第十三條 營業者組合ヲ設ケタルトキハ加名者及取締ノ氏名ヲ記シ組合規約書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ヘシ其増減變更シタルトキ亦同シ

第十四條 第二條第二項第三條第四條第五條第一項第二項第六條第七條第八條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十五條 從來ノ營業者ハ明治廿八年十二月三十七日迄従前使用ノ帳簿ヲ費用スルコトヲ得  
(様式略之)

●群馬縣訓令甲第八十八號 明治二十八年九月四日

警察署 警察分署

質屋取締法令取扱手續左ノ通相定ム

但明治十七年七月戊第三十四號質屋營業者取扱手續ハ廢止ス

質屋取締法令取扱手續

第一條 質屋取締法第一條ニ依リ營業免許ヲ願出タルトキハ同法第十九條ニ牴觸スル者ニアラサ  
ルヤ否ヤ等ヲ調査シ不都合ナキ者ハ第一號様式ノ免許證ヲ下付スヘシ

第二條 質屋取締法令施行規則第五條ニ依リ帳簿ニ檢印ヲ願出タルトキハ紙數記載ノ傍ラニ「何  
年何月何日檢査」ト記入シ署長認印ヲ爲スヘシ

帳簿ノ廢棄ヲ許可シタルトキハ第二號様式ノ許可證ヲ下付スヘシ

第三條 質屋取締法第四條ノ場合ニ於テ認可ヲ與ヘタルトキハ第三號様式ノ認可證ヲ下付スヘシ

第四條 質屋取締法令施行規則第十條ノ申告ヲ受ケタルトキハ物主ニ命シ直チニ消毒法ヲ施サシ  
ムヘシ

第五條 質屋取締法令施行規則第十一條ノ申告ヲ受ケタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ調査シ買受讓  
人ノ身元及其目的用途ヲ明ニスヘシ

第六條 質屋取締法第十八條ノ處分ヲ必要ト認メタルトキハ禁止又ハ停止ニ關スル意見ヲ詳悉シ

上申スヘシ  
營業禁止ヲ解クコトヲ必要ト認メタルトキ亦同シ

第七條 質屋營業禁止者名簿ヲ調製シ官報ノ登載ニ基キ第四號様式ニ依リ全國營業者ノ禁止  
ヲ明記スヘシ

解禁滿期其他異動ヲ生シタルトキハ時々訂正ヲ爲スヘシ

(様式略之)

●群馬縣告示第四十六號 明治二十一年六月二十八日

警察取締ニ關スル諸營業ノ内左記營業ノ開廢ニ限リ所轄警察署分署ニ口頭ヲ以テ願届出ヲナスコ  
トヲ得

一 馬車

一 人力車

一 古物商

一 賣肉

一 製氷他管販賣

一 遊技場

一 烟火請賣

一 飲食物彩色料

一 但大弓射の室内射の借馬々場等危険ノ虞アル營業ヲ除ク

一 遊藝

一 馭者

一 馬丁

移 民

●群馬縣令第五十一號 明治三十年十二月二日

明治二十九年五月外務省令第三號移民保護法施行細則ニ依リ主務大臣若クハ當廳へ差出ス願届書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

●群馬縣令第四十一號 明治卅二年十月四日

海外旅券下付並ニ移民渡航ニ關スル願書ハ爾今左ノ各項ニ依リ差出スヘシ

但明治廿六年四月縣令第二十一號ヲ廢ス

一本人戸主ニ非ラサルモノハ其戸主又戸主ト雖モ未成年者ナルトキハ其親權ヲ行フ父若クハ母又

ハ後見人連署調印スヘシ

一旅券下附願書ハ市町村長與書証印ノ上町村ニ在テハ郡役所ヲ經由縣廳へ差出スヘシ

但旅券手数料五拾錢ハ收入印紙ヲ以テ願書ニ貼用スヘシ

一旅券下附願書中渡航者ノ姓名ニハ片假名ヲ附スヘシ

一移民渡航許可願ハ市町村長與書証印ノ上所轄警察官署ヲ經由縣廳へ差出スヘシ其旅券下付願ト連記シタル場合モ亦同シ

一移民渡航ノモノハ其願書中へ乗船スヘキ船名並ニ出帆豫定日ヲ記入スヘシ

一事故ニヨリ渡航セサルモノハ旅券並ニ渡航許可書ヲ速ニ返納スヘシ

●群馬縣訓令甲第八十九號

明治三十二年十月六月

市役所 町村役場

本年縣令第四十一號ニ依リ海外旅券下付並ニ移民渡航ニ關スル願書ヲ差出シ與書証印申出ノトキハ左ノ各項ヲ調査シ具申スヘシ

但明治二十六年訓令甲第三十一號ヲ廢ス

一渡航ノ目的及ヒ年限

一渡航者ノ資産

一家族引受人ノ資産

一兵籍上ノ關係

一從來ノ生業

一渡航出費ノ途

一犯罪ノ有無

●群馬縣訓令甲第十一號 明治三十三年二月十六日

市役所 町村役場

移民取扱人ニ依ラサル移民ノ布陸へ渡航願書ヲ受ケタルトキハ明治三十二年十月訓令甲第八十九

號ニ依リ調査スルノ外尙左記各項ノ事實ヲ寫下調査シ其證明書及戶籍謄本ヲ添付シ差出スヘシ

一移民保護法第三條ニ依ル保證人ハ直接國稅五圓以上ヲ納メ移民ニ對シ保證ノ責務ヲ盡ス餘カア

ルモノニシテ營利的關係ナキ者

一前項保證人ハ一人ニシテ移民三名以上ノ保證人タラサリシ者

一布陸外國人上陸條例ノ規定ニ依リ左記ノ各項ニ該當セサル者

一白癩、瘋癲、浮浪者、罪人、逃亡人、悪性又ハ劇質ノ傳染病人、密航者、無職人

一自活ノ途ナキ者

但米金五十弗以上ヲ所持セサルモノハ總テ自活ノ途ナキモノト見做サル、ニ付本邦出發ノ際



現ニ右金額ヲ所持シテ右金員ハ本人ノ所有ト認メ得ヘキモノタルヲ要ス  
一 布哇ニ於テ農耕、家庭ノ勞役其他ノ勞働ニ從事センカ爲メ渡航ニ先チ契約ヲ取結ヒ旅費ノ立替  
若クハ其他ノ手段ニ依リ他ノ會社若クハ一人ノ幫助ヲ受ケテ渡航スル者  
但豫メ布哇移住民局ノ認可ヲ經タル契約勞働者ハ此ノ限ニアラス

●群馬縣訓令甲第二十三號 明治三十三年三月十六日 市役所 町村役場

移民取扱人ニ依ラサル移民ニシテ明治二十九年六月外務省告示第七號及明治三十年五月同省第五  
號告示ニ依リ保證人ヲ要スル各國各地(布哇國ヲ除ク)ニ渡航ノ願書ヲ受ケタルトキハ明治三十二年十月訓  
令甲第八十九號ニ依リ調査スルノ外尙左記各項ノ事實ヲ調査シ其證明書及戶籍謄本ヲ添付シ差出  
スヘシ

一 移民保護法第三條ニ依ル保證人ハ直接國稅五圓以上ヲ納メ移民ニ對シ保證ノ責務ヲ盡ス餘力ア  
ルモノニシテ營利的關係ナキモノ

一 前項保證人ハ一人ニシテ移民三名以上ノ保證人タラサリシモノ

### 森林警察

●群馬縣訓令甲第五十七號 明治三十一年五月十六日 警察部 警察署 警察分署

森林法中警察ニ關スル事務取扱手續左ノ通相定ム

森林法中警察ニ關スル事務取扱手續

第一條 森林法第三十一條及同法施行細則第十條ニ依ル届書ヲ受理スルトキハ届出人ノ住所族籍

職業氏名年齢等ヲ記載シタル書面ニ記號ノ形狀並ニ印章ヲ捺捺シタル印鑑ニ通テ添付セシムヘシ

第二條 前條ノ届出ヲ受理シタルトキハ其都度印鑑一通ヲ添へ所轄小林區署へ通知スヘシ

第三條 森林法第三十一條第二項ニ依リ記號印章ノ使用ヲ禁止シタルトキハ所轄小林區署へ通知  
シ其事由ヲ警部長ニ申報スヘシ

第四條 森林法第三十三條及同法施行細則第十一條ニ依リ火入願書ヲ差出シタルトキハ左ノ事項  
調査ノ上許否スヘシ

一 火入地ノ郡市町村大字名地目地番反別 一 火入ノ日時

一 火入者ノ住所氏名 一 防火線ノ設備方法

一 火入地ノ四至境界及現場ノ區域ヲ標シタル畧圖

第五條 防火線ハ幅大凡三間以上ノ柴草落葉塵芥等ヲ刈除シ又ハ土堤溝堀等ヲ設備セシムヘシ  
但其境界地道路河川谿谷等ニシテ防火線ヲ設ケサルモ延焼ノ虞ナキトキハ此限リニアラス

第六條 日出前日没后及風勢穩カナラサルトキハ火入ヲ爲サシムヘカラス

第七條 火入ヲ許可シタルトキ又ハ許可セサル場合ニ在テハ其理由ヲ付シ所管小林區署へ通知ス  
ヘシ

第八條 警察署警察分署ニ於テ火入ヲ許可シタルトキ又ハ小林區署ヨリ火入許可ノ通知ヲ受ケタ  
ルトキハ適宜取締ヲ爲スヘシ

第九條 森林又ハ其近傍ニ於テ蟲害アルヲ發見シタルトキハ直ニ所管小林區署ヘ通知シ其狀況ヲ  
警部長ニ申報スヘシ  
第十條 警察署警察分署ニハ別紙様式ノ記號印章原簿ヲ備ヘ置クヘシ  
(様式畧之)

違 警 罪

●群馬縣令第六號 明治二十年十月十一日  
本縣違警罪目左ノ通相定ム

群馬縣違警罪

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ  
處ス

- 一 行政上官署公署ニ對シ詐偽ノ申告ヲ爲シタル者(廿九年縣令六十號ニテ二字追加)
- 二 行政上故ナク官署公署ノ呼出シニ應セサル者(同上)
- 三 族籍氏名ヲ詐稱シテ客舎ニ止宿シタル者
- 四 外國人ヲ無届ニテ止宿セシメタル者
- 五 神佛其他事ニ托シ妖怪異說ヲ唱ヘ人ヲ蠱惑スルノ所業ヲ爲シタル者
- 六 強ヒテ合力ヲ請ヒ又ハ物品ヲ押賣スル者
- 七 神佛祭事婚禮等ノ節事ニ托シテ人ニ妨害ヲナシタル者

- 八 醉ニ乘シ又ハ穢レニ人ノ妨害ヲナシタル者
- 九 乞食ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 十 喧嘩口論其他ノ暴行ヲ爲シ人ニ妨害ヲ爲シタル者
- 十一 道路又ハ店頭ニ於テ袒裼裸体シ又ハ街路ニ於テ臀部ヲ露ハシタル者
- 十二 男ニシテ女粧シ女ニシテ男粧シ其他奇怪ノ裝飾ヲ爲シテ道路ヲ徘徊スル者
- 十三 社寺山林堤防其他ノ場所ニ榜示ノ禁令ヲ犯シタル者
- 十四 用水又ハ下水等ノ流通ヲ妨害シタル者
- 十五 他人又ハ共有ノ用水ヲ擅用シ又ハ之ニ妨害ヲ爲シタル者
- 十六 水車機關等危險ノ虞アル場所ニ防圍ヲ爲サ、ル者
- 十七 他人ノ獵場又ハ漁場ニ妨害ヲ爲シタル者
- 十八 有毒又ハ劇烈氣物ヲ使用シテ鳥獸獵又ハ漁業ヲ爲シタル者
- 十九 病死ノ鳥獸タルヲ知テ食料ニ販賣シタル者
- 二十 官許ノ場所外ニ於テ獸類ノ皮ヲ剥キ又ハ肉ヲ屠リタル者
- 廿一 牧場外ニ於テ濫リニ牛馬ヲ放飼シタル者
- 廿二 財物ヲ醜集シテ富籤類似ノ所業ヲ爲シタル者
- 廿三 雞犬ヲ鬪ハシメタル者
- 廿四 街路ニ於テ運搬スル汚穢物ノ容器ニ蓋ヲ爲サ、ル者

- 廿五 場所ノ如何ヲ問ハス濫ニ發砲シタル者
- 廿六 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シテ用フル能ハサルニ至ラサル者
- 廿七 報酬ヲ得又ハ之ヲ得ルノ約束若クハ希望ヲ以テ宿屋營業者ノ爲メニ客引ヲ爲シタル者
- 廿八 官署公署ニ於テ建設シタル河川道路ノ測量水標及其附屬物ヲ毀棄汚損シ又ハ位置ヲ移轉シタルモノ
- 廿九 違警罪ヲ以テ處分スヘキ明文アル諸規則ニ違背シタル者

司 法 警 察

●群馬縣訓令甲第八十六號 明治二十三年十二月二十二日 警察署 警察分署  
 明治十八年十二月戊第五十七號及明治二十三年四月訓令甲第八十號違警罪即決處分手續別冊之通  
 改定ス

違警罪即決處分手續

- 第一條 違警罪ハ署長ニ於テ其即決言渡ヲ爲スヘシ  
 但署長不在ノトキハ代理人ニ於テ即決スルコトヲ得
- 第二條 被告人ノ出廷ヲ必要ナリトスル時ハ附錄第一號式ノ呼出狀ヲ郵送スヘシ  
 但便宜巡查又ハ小使等ヲシテ送達セシムルコトヲ得
- 第三條 被告人呼出ニ依リ出廷シ若クハ被告人ヲ引致シタルトキハ何時ニテモ即決言渡ヲ爲スヘシ

- 前項ノ場合ニ於テ科料金ノ假納又ハ保證金ノ納付ヲ必要トスル時ハ口頭ヲ以テ命令スヘシ  
 被告人言渡書ノ謄本ヲ請求スルトキハ速ニ下付スヘシ
- 第四條 被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ巡查ヲシテ其言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其住所ニ送達セシメ領收證ヲ取り置クヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ科料金ノ假納又ハ保證金ノ納付ヲ命スルトキハ附錄第二號式ニ準シタル命令書ヲ作り言渡書ト共ニ送達セシムヘシ
- 第五條 即決言渡書ハ附錄第三號式ニ依ルヘシ
- 第六條 被告人科料ヲ假納セス又ハ保證金ヲ差出サ、ル場合ニ於テ留置ヲ命スルトキハ附錄第四號式ニ準シ命令書ヲ作り巡查ヲシテ執行セシムヘシ  
 但被告人出頭セサルトキハ巡查ヲシテ命令書ヲ帶行セシメ之ヲ引致スルコトヲ得
- 第七條 正式裁判請求ノ申立ヲ受ケ區裁判所檢事ニ訴訟書類ヲ送致スルトキハ假納金又ハ保證金及留置日數其他取扱タル事項ヲ明記シタル送致書ヲ添付スヘシ
- 第八條 科料ノ言渡ヲ受ケタルモノ限内納完セス之ヲ拘留ニ換ユルトキハ附錄第五號式ニ準シ命令書ヲ作り第六條ノ手續ヲナスヘシ
- 第九條 拘留ノ言渡ヲ受ケタルモノ其執行ヲ受クル爲メ出頭セサルトキハ巡查ヲシテ言渡書ノ謄本ヲ帶行セシメ之ヲ引致スルコトヲ得
- 第十條 拘留又ハ留置ヲ執行スル時ハ本犯ニ言渡書ノ謄本及附錄第六號式ノ命令書ヲ添ヘ監獄署

ニ送致スヘシ其監獄署アラサル地ノ警察官署ハ所屬留置場ニ於テ執行スヘシ  
 「第十一條 被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ事實ノ取調言渡書ノ送達又ハ言渡ノ執行ヲ其管轄警察官署ニ囑托スルコトヲ得」(廿六年訓令申五十八號ニテ改正)  
 第十二條 科料金保證金並ニ沒收金品證據物件等ノ取扱方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
 第十三條 警察官署ニ於テハ附錄第七號式ニ準シ違警罪事件簿ヲ調製シ置キ每件其時々記入スヘシ(二十八年訓令申一號ニテ改正)

附錄第一號式

(用紙半紙界紙以下同シ)

縣郡町(村)番地  
身分職業

氏

名

年 齡

違警罪被告事件處分スヘキニ付來ル何月何日當署ニ出頭スヘシ

但代人ヲ差出ストキハ此書狀ヲ持參セシムヘシ

年 號 署  
 印 月 日

群馬縣何警察(分)署

附錄第二號式

命 令 書

縣國郡町(村)番地身分職業

氏

名

別紙言渡書ヲ受取りタルトキハ即時科料金若干ヲ當署ニ假納(拘留何日ノ保證金若干ヲ當署ニ差出)スヘシ若シ假納セサル(差出サル)ニ於テハ違警罪即決例第九條(第十條)ニ依リ留置ノ爲メ引致スルコトアルヘシ

年 號 署  
 印 月 日

群馬縣何警察(分)署長  
警 部 氏

名 圖

附錄第三號式

即 決 言 渡

縣國郡町(村)番地  
身分職業

氏

名(代出人頭スルモ被告人ノ名義ヲ以テ言渡スヘシ)

年 齡

明治何年何月何日時何所ニ於テ何々セシ所爲(事實)ハ刑法第何條何項何規則第何條ニ該當(違犯)スルヲ以テ同條又ハ同則第何條ニ依リ拘留何日科料金何錢ニ處ス  
 但此言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求セントスルトキハ三日(言渡書ノ送達アリタルヨリ五日)以内トス

年 號 署 月 日 印

何警察(分)署長 官 氏 名 圖

(無罪ナレハ)「所爲ハノ下」十二歳未滿又ハ證憑充分ナラサルヲ以テ無罪  
 (免訴ナレハ)「所爲ノ下」時効ニ係ルヲ以テ免訴ス  
 (管轄違ナレハ)「所爲ノ下」管轄違ヒナルヲ以テ何所へ移スモノナリ  
 (減刑ナレハ)「該當スルノ下」モ十六歳未滿ナルヲ以テ一等ヲ減シ云々  
 (加重ナレハ)「該當スノ下」且再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ云々  
 (沒收ナレハ)「所スノ下」其犯罪ノ用ニ供シタル又ハ犯罪ニ依テ得タル何々幾箇ハ沒收ス

命 令 書

縣國郡町(村)番地身分職業

氏 名

尙年何月何日命令シタル科料金若干假納セサル(拘留何日ノ保證金若干差出サ、ル)ニ付違警罪即  
 決例第九條(第十條)ニ依リ何日間留置スルモノナリ

年 號 署 月 日 印

群馬縣何警察(分)署長 警 部 氏 名 圖

附錄第五號式

命 令 書

縣國郡町(村)番地身分職業

氏 名

何年何月何日科料金若干ノ言渡ヲ受ク限内納完セサルヲ以テ刑法第二十七條第三十條ニ依リ拘留  
 何日ニ換フルモノナリ

年 號 署 月 日 印

群馬縣何警察(分)署長 警 部 氏 名 圖

附錄第六號式

何縣郡町(村)番地

身分職業

氏 名

拘留何日 拘置何日 年 號 署 月 日 印

右違警罪事件ニ付頭書ノ通り處分シタルニ付執行有之度候也

群馬縣何警察(分)署長

警 部 氏 名 圖

何監獄署御中



第一章 捜査着手	自第二十七條
第二章 捜査處分	至第四十二條
第一節 證據及ヒ犯人ノ捜査	第四十三條
第二節 被告事件送致	自第四十四條
第三編 假豫審	自第五十一條
第一章 檢證、搜索及物件差押	自第五十二條
第二章 證人訊問	自第五十四條
第三章 鑑定	自第六十五條
第四章 被告人逮捕	自第六十四條
第五章 被告人訊問	自第九十四條
司法警察官執務心得	自第九十九條
第一編 總則	自第九十九條
第一條 司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其職務トス	自第九十九條
第二條 左ニ記載シタル官吏、公吏等ハ司法警察ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ノ指揮ヲ受ク可キ者トス	自第九十九條
一 警視、警部長、警部	自第九十九條
二 憲兵將校、下士	自第九十九條

三 島司	四 郡長
五 市町村長及ヒ之ヲ置カサル地ニ於テ其職務ヲ行フ吏員	七 北海道集治監ノ典獄
六 林務官	
八 海船ノ船長	
第六以下ニ記載シタル者ハ各其主管ニ關スル犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ	
第三乃至第五ニ記載シタル者ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外成ル可ク其處分ヲ第一第二ニ記載シタル者又ハ主管ノ者ニ讓ル可シ	
第三條 警視總監、府縣知事 <small>東京府知事ヲ除ク</small> ハ各其管轄地内ニ於テ犯罪捜査ノ權ヲ有スト雖モ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ讓ル可シ	
第四條 司法警察官ノ職務ハ晝夜ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス	
第五條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ事機ヲ失ハサルコトヲ要ス	
第六條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ緻密ニシテ細大ノ事物ニ注目スルコトヲ要ス	
第七條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪證湮滅、人心動搖ノ弊ナカラシメ且被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトヲ要ス	
第八條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス	
又濫ニ人ノ隱微ヲ許スコトヲ要ス	
第九條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制ヲ用フルコトヲ得ス	

第十條 司法警察官ハ服務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲サル可カラズ

第十一條 司法警察官ハ專ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除シコトニ着眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢舉スルコトノ多數ナルシテ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第十二條 奸惡ノ徒ハ巧ニ法網ヲ脱スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第十三條 司法警察官ハ搜查ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ備ツ可キモノニ非ズ故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ搜查ニ着手セサル可カラス

第十四條 司法警察官、被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ司法警察官ニ讓ル可シ

第十五條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ證據ヲ携帶ス可シ若シ請求スルモノアルトキハ之ヲ示ス可シ

第十六條 司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスルトキハ警察器、憲兵屯營ニ照會シテ巡查、憲兵上等兵ヲ使用スルコトヲ得

但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フ例トス  
但假豫審處分ヲ除ク外時宜ニ依リ他ノ管轄區域内ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十八條 司法警察官搜查ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルコトナシ

第十九條 司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄區域内ニ於テ取扱フ可キ事件ニ付キ補助ノ求メアルトキハ之ニ應ス可シ豫審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條 司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告ス可シ

一 刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪

二 高等官、華族、有位、帶勳者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪

三 外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪

四 重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪

第二十一條 陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其違警罪處分例ニ從ヒ處分ス可シ  
但歸休兵及豫備、後備ノ軍籍ニ在リテ召集中ニ在ラサル者并ニ在官、現役又ハ召集中罪ヲ犯シ免官、免役若クハ解散ノ後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ依ル

(參照)

陸軍治罪法

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛



兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發テ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

海軍治罪法

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發テ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ訓書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

海軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二十二條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ (參照)

明治七年太政官第百二十八號達

司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲法以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴張スル時ハ其家族並ニ公使館屬員書記官隨員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸書記官ノ名籍ニアル者ヲ云フ及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト恩料スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做

シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歴テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待テ後引出スヘシ尤モ其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出

外務省ハ其届出ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル所ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會テ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ其姓名簿記中ニ

在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述フル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置ス可シ但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ハ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其

把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論馬車家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲ス可シ

外國公使屬員罪ヲ犯シ并犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可カラス或ハ屬員ノ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手續ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルトキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡ヲ要求シ其人ヲ受取りテ後チ之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムトキハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

第二十三條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身體、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用ス可ラス

第二十四條 司法警察官ノ作ル可キ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日、場所ヲ記載シテ署名捺

印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用フル事能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ストキハ之ニ認印シ其字數ヲ記載ス可シ

但削除ノ部分ハ讀ミ得可キ爲メ其字体ヲ存ス可シ

凡テ書類ハ文飾ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ失ハサルコトヲ要ス

第二十五條 被告人、證人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル書類ハ之ヲ本人ニ讀聞カセ署名捺印セシム可シ若シ本人署名捺印スルコト能ハサルトキ又ハ氏名ヲ代書シ本人ヲシテ捺印若クハ捺印セシメタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二編 捜査

第二十六條 捜査ハ犯罪ノ證據及犯人ヲ檢舉シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス第一章 捜査着手

第二十七條 捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞、風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ着手ス可キモノトス

第二十八條 告訴、告發ノアリタル場合ニ於テ告訴ヲ告發ト稱シ告發ヲ告訴ト稱シ其他何等ノ名稱ヲ以テスルモ之ヲ受ケ宜シク實ニ從テ處分ス可シ

第二十九條 告訴、告發ハ却下ス可キモノニ非ス其捜査ニ着手ス可キ事件ナルト否トニ拘ハラズ之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セサル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十一條 口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ隨意ニ其事件ヲ陳述セシメ調書ヲ作ル可シ

第三十二條 告訴、告發ニ付キ増減變更ノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシメ又ハ調書ヲ作ルヘシ

第三十三條 告訴、告發ヲ受クルトキハ成ル可ク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、證人ノ住所、氏名其他證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立テシメ調書ヲ作ル可シ

第三十四條 被告人ヲ指名シテ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其誣罔ニ出ツルナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトヲキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第三十五條 告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シタルカ爲メ後難ヲ畏ル、摸樣アルトキハ其氏名ヲ顯サ、ルコトニ注意ス可シ

第三十六條 代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシム可シ  
但法律上代理人告訴ヲ爲ストキハ此限ニアラス

第三十七條 告訴、告發ノ取下アルモ其書面ハ返附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印シタル取下申立書ヲ差出サシム可シ  
口述ヲ以テ取下ヲ爲ストキハ其申立ニ付キ調書ヲ作ル可シ

第三十八條 官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲ス可キモノナリト雖モ急速ヲ要スル事件ニ付キ

一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ捜査ニ着手ス可シ

第三十九條 犯罪ヲ自首スル者アリタルトキハ其陳述ヲ錄取ス可シ

第四十條 自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ自

證ヲ隠ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜シク其虛實及ヒ盡不盡ニ注意ス可シ

第四十一條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風説アルトキハ其出所、原因等ヲ取調ヘ其虛實ニ注意ス可シ

第四十二條 變死、創傷者アリタルトキ又ハ隱匿、埋藏物等ヲ發見シタルトキハ其犯罪ニ原因シタルヤ否ニ注意ス可シ

第二章 捜査處分  
第四十三條 捜査處分ハ犯罪ノ原由、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ形狀、多寡、被告人ノ氏名、年齢、職業、出生ノ地、住所、本籍、身分、品行、前科ノ有無及ヒ證人ノ誰タルコト其他證憑ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調アルニ在リ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ摸樣ニ注意ス可シ  
第一節 證憑及ヒ犯人ノ捜査

第四十四條 犯罪ノ場所又ハ證憑物件所在ノ場所ニ就キ捜査ヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ

為スコトヲ得

但家屋、建造物又ハ船舶ニ係ルトキハ其戸主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ其實況ヲ錄取ス可シ

第四十五條 犯罪ノ事實ヲ證明ス可キ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保全セシムルコトヲ得

領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目錄ヲ作り所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第四十六條 前二條ノ處分官署公署ニ係ルトキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

第四十七條 捜査上必要トスルトキハ犯罪ノ事實ヲ知ル可シト思料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若

シハ其所在ニ就キ陳述ヲ聽クコトヲ得

但呼出ヲ為スニハ書面又ハ口頭ヲ以テ報知ス可シ

又其承諾ヲ得テ犯所其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第四十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人其他ノ者ノ陳述ハ之ヲ錄取ス可シ

事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面ヲ差出サシムルモ妨ケナシ

第四十九條 捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ為サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定書ニ記載シ之

ヲ差出サシム可シ

第九十六條ノ手續ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス可シ

第五十條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ為スコト能ハサル場合ニ於テハ鑑定ヲ為サシム可カラス

但腐敗其他ノ理由ニ因リ其物件ヲ保存ス可カラサルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 鑑定ヲ為メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルトキハ檢事ノ許可ヲ受ク可シ其解剖ハ必要ナル部分ノ外之ヲ為サシム可カラス

(參照) 明治十年第二十二號布告變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ

其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事<sup>檢事派出ナキ地方</sup>ノ許可ヲ受ク其部分ヲ解剖檢

査セシムルコトヲ得

第二節 被告事件送致

第五十二條 被告事件ノ要領ヲ得タルトキハ送致ノ手續ヲ為ス可シ

但送致後ト雖モ必要ナルトキハ仍ホ捜査ヲ為ス可シ

被告事件ヲ送致スルトキハ證據物件及ヒ意見書ヲ添ヘ且參考トナルヘキ事項ヲ報告スヘシ

第五十三條 重罪、輕罪ノ捜査ヲ為シタルトキハ速ニ其事件ヲ管轄裁判所檢事局ニ送致シ違警罪

ニ付テハ即決ヲ為ス可キ官署ニ送致ス可シ

第五十四條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ犯罪ニ付テハ捜査ヲ為シタル者ヨリ其事件ヲ其地

ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致スヘシ

場合ニ於テハ速ニ其地ノ地方裁判所ノ検事局ニ其旨ヲ報告ス可シ

第三編 假豫審

第五十五條 司法警察官重罪、輕罪ノ現行犯、准現行犯ニ付キ刑事訴訟法第四百十七條ノ處分ヲ爲スヲ假豫審トス

第五十六條 現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタルト否トヲ問ハス假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 准現行犯ニ付テハ成ル可ク被告人ヲ逮捕シタル後假豫審處分ヲ爲スコシ

但數人共犯ノ場合ニ於テハ他ノ正犯、從犯未ダ捕ニ就カスト雖モ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得  
家宅内ノ犯罪ニ付キ戸主又ハ戸主ニ代ハル可キ者ノ請求ニ因リ檢證處分ヲ爲シタルトキハ被告人ヲ逮捕セスト雖モ其他ノ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 假豫審ニ着手シタル事件ト雖モ一タヒ其手續ヲ止メタルトキハ復タ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 假豫審ニ着手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事其處分ヲ爲サントスルトキハ速ニ之ヲ讓ル可シ

第六十條 假豫審ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所其他犯罪ニ關スル證憑ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ付テモ亦其取調ヲ爲スコシ

第六十一條 假豫審ニ關スル書類ハ司法警察官自ラ之ヲ作ル可シ

但時宜ニ因リ巡查、憲兵上等兵等ヲシテ筆記セシムルハ妨クナシ

第六十二條 假豫審處分ヲ了シタルトキハ第五十二條以下ニ從ヒ被告事件送致ノ手續ヲ爲スコシ

第六十三條 假豫審ニ着手シタル後其取調ヲ繼續ス可キモノニ非スト思料スルトキハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ放免シ其旨ヲ檢事局ニ通知スヘシ

第六十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付テハ刑事訴訟法第五十八條ノ處分ヲ除ク外現行犯ノ場合ト雖モ搜查處分ニ止ム可シ

第一章 檢證、搜索及物件差押

第六十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スコシ

第六十六條 假豫審ニ付テハ被告人又ハ其他ノ者ノ住居ニ臨檢シ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前條ノ處分ヲ爲スニハ戸主又ハ本人ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ルヘク處分前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用ユルコトヲ要ス

第六十八條 事實ヲ證明スヘキ物件ヲ所持スト雖モ藏匿ノ情ナキ者ハ成ルヘク住居、身體又ハ物件ニ就キ搜索ヲ爲サズ本人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシムヘシ

第六十九條 被告人ニ非サル者ノ住居、身體又ハ物件ヲ搜索スルハ物件藏匿ノ疑アル場合ニ限ル

ハシ

第七十條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ニ付テハ戸主又ハ同居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ白痴、瘋癲、幼年者ナルトキハ市町村長又ハ其在ラサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七十一條 官署、公署ニ於テ檢證、搜索、物件差押ヲ爲ストキハ其署ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ立會アルコトヲ要ス

第七十二條 檢證、搜索ノ場所ニ於テ發見シタル物件ニシテ其出所、性質、形狀、用方等ニ因リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押フ可シ  
官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ所持スル物件ニシテ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スル者ハ其承諾アルニ非サレハ差押ヲ爲スコトヲ得ス

醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分、職業ノ爲メ委託ヲ受ケタル物件ニシテ默秘ス可キ義務アル事情ニ關スル者ニ付テモ亦同シ

第七十三條 檢證、搜索、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テ必要トスルトキハ其場所ニ於テ証人ノ陳述ヲ聽キ又ハ鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十四條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ハ日出前、日没後之ヲ爲スコトヲ得ス

但急速ヲ要スル場合ニ於テ戸主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ檢證、搜索ヲ爲スコトヲ得  
第七十五條 旅店、制烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間内ニ限り何時

ニテモ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 住居内ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯ス者アリテ急速ノ處分ヲ要スルトキハ何時ニテモ其現場ニ限り檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶、牆壁、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

又其處分ヲ終リタルトキハ書類、物件ノ紛失、毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲ス可シ

第七十八條 檢證、搜索、物件差押中雜沓、喧噪其他妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止スヘシ又何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十九條 檢證、搜索、物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セサルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事故アリテ之ヲ停止スルトキハ証憑湮滅ヲ豫防スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第八十條 住居搜索ヲ爲スニハ其目的トスル所ノ書類、物件ヲ藏匿スルコトヲ得ヘシト思料スル場所ニ限ルヘシ

第八十一條 檢證、搜索、物件差押ヲ爲シタルトキハ其調査ヲ作ル可シ  
差押ヘタル物件ハ其品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其抜書又ハ謄本ヲ渡スヘシ

第八十二條 差押ヘタル物件ハ散佚、毀損ヲ防ク爲メ認印若シハ封印ヲ爲シ且其差押ヘテ爲シタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付ス可シ

又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲ス可シ

第八十三條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得

但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開披ス可カラス

書類、電報、物件ヲ受取タルトキハ其證書ヲ渡ス可シ

第八十四條 差押ヘタル物件ト雖モ檢事局ニ送致スルニ及ハサルモノト認ムルトキハ所有者又ハ保管者ニ保全ヲ命シ其受書ヲ差出サシム可シ

第二章 證人訊問

第八十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ證人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スコトヲ得

證人檢證、搜索ノ場所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 證人ニハ先ツ其氏名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ

但シ宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十七條 證人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解シ易キ言語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス

第八十八條 證人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁、討論ヲ爲スコカラス若シ其陳述

他岐ニ涉ルトキハ之ヲ止メ齟齬アルトキハ之ヲ質ス可シ

第八十九條 證人ハ愛憎、畏懼ノ心ヲ生シ或ハ他ノ陳述ニ雷同スルノ恐アルヲ以テ成ル可ク被告人又ハ他ノ證人ト各別ニ訊問ス可シ

但對質ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 證人ヲシテ證據物件ニ付キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ成ル可ク其物件ヲ示ス可シ

第九十一條 證人ヲシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ就キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ其場所ニ同行スルコトヲ得

第九十二條 證人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム可シ

聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ國語ニ通セサル者ニ付テモ亦同シ

第九十三條 證人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ其調書ヲ作ル可シ

證人其陳述ヲ變更、増減センコトヲ中立タルトキハ更ニ其陳述ヲ聞キ調書ヲ作ル可シ

第三章 鑑定

第九十四條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要トスルトキハ醫師、穩婆、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ

得

第九十五條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干渉ス可カラスト雖モ成ル可ク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第九十七條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明ナラサルトキハ其推測スル所ヲ記載セシム可シ

數名ノ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシム可シ

鑑定書ニハ鑑定セシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ毎葉ニ契印セシム可シ

第九十八條 鑑定書ニ不明、不備ノ點アルトキハ更ニ其説明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添置シ可シ

第四章 被告人逮捕

第九十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯、准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直チニ之ヲ逮捕ス可シ

但被告人ノ身分又ハ事件ノ模様ニ因リ其逮捕ヲ必要トセサルトキハ此限ニアラス

第一百條 現行犯、准現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

但日出前、日没後ハ戸主又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾アルニ非サレハ他人ノ家宅内ニ進入ス

可カラス

第一百一條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フ可シ

被告人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ用フルモ決シテ自衛ノ區域ヲ除ユ可カラス

第一百二條 假豫審ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託スヘシ

若シ其事件急速ヲ要スルトキハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發スヘシ

第一百三條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間内ハ留置場ニ入レ置クコトヲ得

第一百四條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲ爲スヘシ

勾引狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第一百五條 常人ニ於テモ現行犯、准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ルヘシ其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第一百六條 現行犯、准現行犯ニ付キ巡查、憲兵上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調書ヲ作ルヘシ



逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ之ヲ調書ニ添置クヘシ

第七條 勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ年月日時ヲ記載ス可シ其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示スヘシ

第八條 勾引狀ハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第五章 被告人訊問

第九條 假豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問スヘシ

但論證、搜索、物件差押及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第十條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問スヘシ

- 一 氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地
- 二 有位又ハ帶勳者ナルヤ否

三 前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名、刑名、裁判言渡ヲ爲シタル廳名及ヒ其年月日

第十一條 被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齢、身分、性質等ヲ斟酌シ一樣ノ訊問ヲ爲ス可カラス

第十二條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フヘカラス又簡明ヲ旨トシ勉メテ疑似ニ涉ルコトヲ避クヘシ

第十三條 被告人ニハ自由ニ發言セシムヘシト雖モ餘事ニ涉ラシメサルコトニ注意スヘシ

第十四條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ルヘク同時ニ數事項ヲ訊問スヘカラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ルヘク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フヘシ

第十五條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ルヘク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防クヘシ且輒ク事實ヲ得ヘシト思料スル者ヨリ訊問ヲ爲スヘシ

第十六條 證憑物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辨解ヲ爲サシムヘシ

第十七條 事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラサレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムヘカラス

第十八條 第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ

第十九條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニ因リ其言語、氣色等ニ注意スヘシ

第二十條 被告人ノ白狀アリト雖モ一概ニ眞實ト做スヘカラス其白狀ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意スヘシ

第二十一條 訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作り問答ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナク記載スヘシ

第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ

● 群馬縣訓令甲第十七號

明治三十三年三月二日

警察署 警察分署

從來發布ノ縣令中刑法ニ正條アルモノト雖モ罰例ヲ附記候處自今發布ノ縣令中刑法ニ正條アルモ

ノハ總テ罰例ヲ附セサルニ付縣令發布アリタルトキハ取扱上特ニ注意ヲ加フヘシ

●群馬縣戊第三十一號 明治十八年七月十八日 警察本署 警察署 警察分署  
郵便遞送人並ニ集配人郵便物遞送集配ノ途中罪ヲ犯シ又ハ之ヲ逮捕若クハ引致スルトキハ司法警察官又ハ巡查ニ於テ代人ヲ使用シ其遞送人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局ニ遞送セシメ集配人ノ携帶セルモノハ所轄郵便局ニ送達セシメ該費用ハ正當受領人ノ受領証ヲ添ヘ請求書差出スヘシ

●群馬縣訓令乙警第一號 明治二十二年一月十八日 警察署 警察分署  
司法警察官ニ於テ現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ交付ヲ受ク又ハ軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受クタルトキハ陸軍治罪法第四十二條第四十三條ニ依リ同第三十一條ニ列記セル陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官、隊長、大隊區司令官、監獄長、衛生司令ニ送付スヘキ筈ノ處往々法官部或ハ軍法會議理事ヘ送付セシ向モ之レアル趣ヲ以テ第一師團法官部主事ヨリ照會ノ次第モ之レアリタルニ付自今必ス陸軍治罪法ノ手續ニ從ヒ不都合無之様取扱フヘシ

●群馬縣訓令甲第六十五號 明治三十年六月十五日 警察署 警察分署  
海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ヲ違警罪即決例ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其所屬ノ長官若クハ艦團其他各部ノ長ニ通知スヘシ

●群馬縣戊第三十四號 明治十六年九月二十九日 警察署  
公私立學校職員並學務委員ニシテ禁錮以上ノ處刑見込ヲ以テ法衙ヘ送付シタル者有之トキハ詳細事由ヲ具シ其都度開申可致此旨相達候事

●群馬縣訓令甲第四號 明治二十八年一月十五日 警察署 警察分署  
明治二十二年十一月訓令甲第三百三十三號犯罪事件簿別紙ノ通り改正ス  
一 (簿式畧之)

●群馬縣訓令甲第六十五號 明治三十三年六月十五日 警察署 警察分署  
犯罪捜査原簿及記載例別紙ノ通相定ム

番 號	罪 名	捜査着手 ノ月日及 原由	犯罪ノ月 日時場所 及事實ノ 要領	捜査セシ 事實ノ摘 要	(用紙美濃紙)		
					被 告 人 ノ 原 籍	住 所 身 業	分 職 年 齡

捜査了 年月日	
及事由	
備考	

記載例

- 一本簿ニハ所轄内ノ犯罪ニシテ引續捜査ヲ要スル事件ヲ登載スルモノトス
- 一番號ハ一事件ヲ以テ一號トシ一年間通シテ之ヲ用ユヘシ
- 一捜査着手ノ月日及原由ノ欄ニハ何月何日被害者某ノ届出告訴又ハ巡査某ノ告發ニ由リ等簡明ニ記入スヘシ
- 一被告人ノ原籍住所氏名等ノ欄ニハ被告人ノ原籍住所氏名年齢等ヲ詳記スヘシ若シ不明ナルトキハ先ツ其ノ人相又ハ男女ノ區別等ヲ記入シ置キ判明シタルトキ之ヲ追記スヘシ
- 一犯罪ノ月日時場所及事實ノ要領ノ欄ニハ何月何日何時何處ノ何某住家ニ忍入り金何圓衣類何点ヲ窃取ス云々ト成ルヘク簡明ニ記入スヘシ
- 一捜査セシ事實ノ摘要ノ欄ニハ捜査ノ進行ニ伴ヒ捜査ノ事實ヲ摘記シ一見シテ捜査ノ情况ヲ知り得ルヲ旨トシ簡明ニ且ツ漏ナク記入スヘシ
- 一捜査了ノ年月日及事由ノ欄ニハ何年何月何日被告人逮捕證告又ハ何年何月何日何警察署ニテ就捕ノ如ク記入スヘシ
- 一備考欄ニハ令狀發布ノ年月日又ハ證據品ノ處分等參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

●群馬縣訓令甲第四十九號

明治三十一年四月十六日

内務部 警察部 監獄署 警察署 警察分署 監獄支署

明治三十年七月訓令甲第八十三號左ノ通り改正ス

警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置スル者ノ賄料ハ一食金參錢五厘以内トス

●群馬縣訓令甲第八號 明治二十八年十二月十三日 警察部 警察署 警察分署

各警察署分署ノ留置人名簿様式別紙ノ通り相定ム

(様式畧之)

●群馬縣訓令甲第二百二十七號 明治二十九年十月二十四日

警察署 警察分署

明治二十二年十二月訓令甲第五百一十一號左ノ通り改正ス

重輕罪ニ係ル被告事件ヲ檢事ニ送致セントスルトキハ別紙身元調書用紙ノ表面ニ其被告人ノ族籍身分職業氏名年齢等詳記シ本籍ノ市町村長ニ宛發送スヘシ

(身元調書様式畧之)

●群馬縣無號 明治十六年十月二十五日

「戸長役場」

被告人原籍調等ノ義ハ犯罪捜査ノ一部分ニシテ就中非現行犯ニ至テハ多クハ逮捕前ニ係リ最モ秘密ヲ要スルハ勿論ニ付自今其役場ハ該調方照會有之トキハ他ニ不漏洩様厚ク注意可致此旨内達候事

●群馬縣丙第二十一號 明治十四年三月十日

郡役所

犯罪人原籍及資力調等東京警視廳並各府縣ヨリ照會有之候ハ、取調ノ上直ニ回答可致此旨相違候事

●群馬縣甲第二十六號 明治十七年四月八日

監視ニ付セラレタル者他ノ地方ニ旅行スル時ハ必ス監視票ヲ携帶シ其滯留數日ニ涉ル者ハ滯留地ノ警察署ニ到リ謹慎ヲ表シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ

●群馬縣甲第六十八號 明治十八年八月廿七日

自今盜難ニ罹リタル者ハ別紙書式ニ準シ書面一通ヲ作り速ニ所轄警察署分署又ハ巡查派出所ニ届出ヘシ

若シ届書ヲ作ル暇ナキカ又ハ之ヲ作ル能ハサルトキハ口述ヲ以テシ且ツ便宜最寄警察署分署又ハ巡查派出所ニ届出ツルモ妨クナシ

(別紙)

強盜難届書式

強盜難御届

群馬縣上野國何郡町村身分職業

何 某

年 齡

右ハ明治何年何月何日午前(後)何時頃家内一同打臥罷在(或ハ未タ寢入ラサル中)(又ハ何々致居

候處)見識ラサル男何人何所ヲ打破リ(或ハ何所ノ戸ヲ外シ)各(内何人)拔刀(或ハ何棒)ヲ擽ヘ押入誰々ヲ呼起シ金錢可差出聲立候ハ、切(打)殺スヘキ旨申威シ何体ノ男ハ誰ヲ縛シ何体ナル男ハ誰ニ案内致サセ(或ハ自分)家中ヲ搜索シ(或ハ如何様ナル男ハ其際誰ニ傷ヲ負ハセ)金錢物品奪取リ直ニ何所ヨリ立去候ニ付後ニテ誰ヲ縛サレタル何細ヲ解キ賞ヒ(或ハ自分ニテ解キ)篤ト相改候處被奪取候金錢物品並ニ其節賊ノ棄置品及ヒ人相等左之通り

一金何圓何拾錢

内

何々何圓紙幣 何 枚

何々何拾錢紙幣 何 枚

何錢銅貨 何 枚

一古金銀 何 個

内

何々小判 何 枚

何々金(銀) 何 個

一木綿(絹)(縮緬)何色何縞拾(綿入)(單衣)(羽織) 何 枚  
但裏何々(或ハ何々ノ幾ツ紋付)

代價金何圓位

一 太刀脇差

何 本

但銘誰刀身何尺何寸幾頭何々何ノ模様貫目何々鞘何塗

代價金何圓位

賊棄置品

一 何々

賊人相

何 個

一 年 齡

何 年 位

一 丈

何 尺 位

一 目 口 鼻 耳

並 或 ハ 何 ヲ

一 肉

瘦 或 ハ 太 リ タ ル 方

一 音 聲

高 低

一 風 体

何 ヲ

一 言 語

何 國 言 葉

一 何 所 ニ 何 ヲ ノ 傷 或 ハ 黒 子 或 ハ 何 ア リ

一 着 衣 木 綿 何 色 何 縞 ノ 何 衣 ヲ 着 シ 下 ニ 股 引 ヲ ハ キ (或 ニ 上 ハ 何 縞 ノ 袴 ヲ 着 ケ リ)

一 帶 何 ヲ

一 履 物 鞋 草 或 ハ 素 足

以 上

一 年 齡

何 年 位

一 丈

何 尺 位

一 何

何 ヲ

以 上

右ノ通ニ付縛サレタル何細并ニ棄置品相添此段御届仕候也

右

明治何年何月何日

何

某 印

群馬縣某警察署(分署)長

警部(補) 某 殿

竊盜難届書式

竊盜難御届

群馬縣上野國何郡何町村何番地身分職業

何

某

年 齡

右ハ明治何年何月何日午前(後)何時家内一同不在(或ハ寢臥)罷在同時頃歸宅(或ハ何々ノ音ニ驚キ目覺候處何所ヲ破リ)(又ハ何所ノ錠前ヲ開キ又ハ捨切り)(或ハ何所ノ戸障子明ケ放チ)家財

モ取リ散シ有之ニ付盜賊ノ所爲ト存シ篤ト相改候處左之通り  
一白(玄)米 何俵(何俵)

此代價金何圓何拾錢

一懷中時計 一個

但金銀側番號何番

此代價金何圓位

一何々 何個

但何摸樣品柄何々

此代價金何圓位

右物品全ク盜取ラレ候ニ付此段御届仕候也

明治何年何月何日

右

何

某印

群馬縣某警察署(分署)長

警部(補) 某 殿

◎群馬縣戊第三十九號 明治十八年八月二十八日

警察本部 警察署 警察分署

盜難届取扱手續別紙ノ通相定ム

右相違候事

(別紙)

盜難届取扱手續

第一條 警察署分署ニ於テ盜難ノ届出ヲ受ケタルトキハ犯人捜査ノ資料トナルヘキ事項ヲ詳密質  
尋シ其届書ニ盡サル、所ノモノハ附録第一號式ニ準シ除白又ハ別紙ニ錄取シ口頭ニテ其届出ヲ  
受ケタルトキハ第二號式ニ準シ盜難届聽録ヲ作り届入ト共ニ署名捺印スヘシ

但別紙ニ錄取シタルモノハ本届書ニ添付契印スヘシ

第二條 巡查派出所ニ於テ盜難ノ届出ヲ受ケタルトキハ前條ノ手續ヲ爲シ書類ハ速ニ所轄警察署  
又ハ分署ニ送達スヘシ

但急速ノ處分ヲ要スル事件ナルトキハ適宜處分ノ後其書類ヲ送達スヘシ

第三條 警察署分署又ハ巡查派出所ニ於テ所轄地外ニ係ル盜難ノ届出ヲ受ケタルトキモ亦々前二  
條ノ手續ヲ爲シ書類ハ速ニ其所轄警察署又ハ分署ニ送達スヘシ

第四條 巡查派出所ニ於テ賊棄置品アル盜難届ヲ受ケタルトキハ書類ハ即日物品ハ十日以内ニ所  
屬警察署又ハ分署ニ送達スヘシ(十九年戊第六號ニテ追加以下順次條下)

第五條 犯人捜査ノ資料トシテ質尋スヘキモノハ概略左ノ事項トス

- 一 被難ノ日時場所及ヒ現場ノ狀景
- 一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キタルヤ否
- 一 二人以上ナルヤ否

一 兇器ヲ携帶シタルヤ否  
 一 脅迫又ハ暴行ノ次第  
 一人ヲ死傷シタルコトノ有無  
 一 盜品ノ取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタルヤ否  
 一 棄置品ノ有無  
 一 賊ノ人相風体言語衣ヒ着衣等ノ摸樣  
 第六條 代人ヲ以テ盜難ノ届出ヲ爲シタルトキ其書面ニ盡サ、ル所アルカ又ハ口頭ヲ以テスルモ  
 共ニ第一條ノ手續ニ從フヘシ  
 第一號式  
 本届書中遺漏不盡(又ハ)變更ノ廉々左ノ通申述セリ  
 被盜品遺漏ノ分  
 一 木綿紺三布風呂敷 何 枚  
 但中央ニ何々ノ紋白地ニテ染抜アリ  
 代價金何錢位 何 個  
 一 何 何 個  
 代價金何錢位  
 被盜品中摸樣不盡ノ廉

一 金銀側時計ハ(アンシル)(又ハ何製)ニシテ獅子ノ左(右)向ニ(1897)ノ番號アリ  
 一 刀ハ長サ何尺何寸ニシテ鞘ニ何々ノ形塗出シアリ鏢ニハ何々ノ摸樣アリ  
 賊人相不盡ノ廉  
 一年齡何年位ノ男ハ滿面痘痕ヲ帶ヒ且ツ左(右)眼上部ヨリ頬ニ掛ケ何寸何分程ノ切疵アリ  
 右眉人ノ申述ヲ錄取シ之ヲ請聞カセタルニ其相違ナキヲ承認ス依テ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス  
 群馬縣某警察署(分署)(巡查派出所)  
 警部(巡查) 何 某 印  
 右届人  
 何 某 印  
 第二號式  
 強(竊)盜難届聽取錄  
 群馬縣上野國何郡何村何番地身分職業  
 何 某 年 齡  
 右ハ明治何年何月何日午前(後)何時當警察署(分署)(巡查派出所)ニ出頭本職面前ニ於テ左ノ届出  
 ヲ爲シタリ  
 一 明治何年何月何日午前(後)第何時頃家内一同熟睡罷在ル處(裏戸ノ方ニテ烈シキ物音致シ打驚

キ目覺シタル折柄抜刀ヲ携ヘタル男何人表戸ヲ切破リ直ニ私枕元ニ到リ(或ハ寢臥サントシテ所々ノ戸締リヲ爲シ寢所ニ入ルヤ否此處明ケロ此處明ケロ明ケサレハ打破リ押入り切殺スヘキ旨申威シ頻リニ戸ヲ打毆キタルニ付却テ打破ラレハ如何ナル怪我爲スモ難計ト存シ其戸ノ錠前ヲ外シ明ケ遣ハシタレハ抜刀ヲ携ヘタル男一人先キニ立チ續ヒテピストル或ハ何棒ヲ携ヘタル男何人押入り)内何ヲ携ヘタル男私ヲ捕縛シ妻或ハ下男某ニ案内致サセ押入レノ箆笥或ハ長持ノ中ヨリ奪取リタル物品左ニ

一木綿(絹)(縮緬)(越後縮)紺(淺黄)何色堅(横)縞(綿入)(單衣)(羽織) 一枚  
但何々幾ツ紋付裏何色絹(木綿)

代價金何圓位

一古金(銀)

何 個

内

豆板金

何 個

代價金何圓位

南鐐

何 個

代價金何圓位

何大(小)判

何 個

一刀

何 本

但拵付縁頭赤銅何々ノ模様目貫金無垢虎ノ見鑄何鉄角(丸)何々ノ模様アリ鞘何塗刀身何尺何寸銘何々トアリ

代價金何圓位

賊人相左ニ

一年齡

何年位

一目口鼻耳

並或ハ大小高低

一頭

散髪或ハ結髪

一丈

何尺何寸

一肉

瘦或ハ肥

一言語

何國言葉

一音聲

何

一着衣

何木綿何色何縞袷

一帯

綿入ヲ着シ下ニ白メリヤス肌衣ヲ着セリ

一何々

何々又ハ白木綿ヘヨ帶

賊棄去品

一何々

何 個

(以上強盜ノ例)



一明治何年何月何日午前(後)第何時頃家内戸締ノ上一同寢臥同何時頃目覺メ起上リ(或ハ一同他出同何時頃ニ歸宅)候處何所ノ戸開放之レアリ不審ト存シ相改メ候處何ノ間(或ハ押入)ニ之レアル箆筒(長持)ノ中ヨリ左ノ品々

一何々 何 個

但何々ノ模様何々ノ印アリ

代價金何圓位

一何々 何 個

但何々

代價金何圓位

(以上竊盜ノ例)

前述ノ通睡眠或ハ不在中賊忍入り竊取或ハ奪ヒ取り何方ノ場所ヨリ何方ヲ向ケ立去リタリ右届人某ノ陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞セタルニ其相違ナキヲ承認ス依テ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス

群馬縣某警察署(分署)(巡查派出所)

明治何年何月何日

警部(巡查) 何 某印

右届人

何 某印

◎群馬縣訓令第七十五號

明治二十二年四月十一日

警察署 警察分署

明治十七年九月戊辰第四十一號品觸發布手續別紙ノ通改正ス

品觸發布手續

第一條 警察署分署ニ於テ品觸ヲ發布スヘキ場合ハ左ノ如シ

一強盜盜難等ノ届出ヲ受ケ其物品貴重ナルカ若クハ徽章又ハ目票アル時

一警察本部ノ指揮アリタル時

一管内外警察署分署等ヨリ品觸發布ノ囑託アリタル時

第二條 前條品觸ヲ發布スルトキハ附錄第一號式ニ據リ品目別徽及其商名等ヲ記載シ古物商質屋

頭取ニ送附シ附錄第三號式ノ帳簿ニ受領印ヲ徴スヘシ

第三條 品觸品發見シタルトキハ附錄第二號式ニ據リ品目番號ヲ記載シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 品觸ヲ發布シ又ハ發布ノ後其物品ヲ發見シタルトキハ警察報告例ニ從ヒ即時警察本部ニ

報告スヘシ

但第一條第二項第三項ノ場合ハ此限ニアラス

第五條 管内外警察署分署ノ所轄内ニ品觸ヲ必要ト認ムルモノハ前條ノ報告書ニ其理由ヲ添申ス

ヘシ

但急速ヲ要スルモノハ直ニ其囑託ヲ爲スコトヲ得

第六條 警察本部ニ於テ品觸又ハ其發見ノ報告ヲ得タルトキハ警察公報ニ登載シ且他ノ警察署分

署ノ所轄内ニ品觸又ハ發見ノ通知ヲ要スルモノハ其警察署分署ヲシテ第二條第三條ノ手續ヲ爲

サシムヘシ

第七條 他府縣ヨリ品觸ノ囑託又ハ其發見ノ通知ヲ受ケ又ハ他府縣ニ品觸ヲ要スルトキハ前項ニ準ス

第八條 警察署分署ニ於テ「頭取」ヨリ品觸達示濟ノ届ヲ受ケタルトキハ其回達書又ハ配附簿ヲ點檢シテ認印スヘシ

(廿八年質屋取締規則全年古物商取締規則參看)  
(附録略之)

雜 件

◎群馬縣告示第百六十一號 明治三十年九月二十一日

香川縣ニ於テハ同縣内ニ於テ職工ヲ募集セントスル者ニ對シ左ノ通縣令ヲ發シタル旨通知アリタ

◎香川縣令第八十五號 明治三十年九月十五日

他府縣ニテ使用スル職工ヲ本縣内ニ於テ募集セントスル者ハ左ニ記載スル事項ヲ具シ當廳ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ

一 募集ニ從事スル者ノ住所氏名年齢

二 募集スヘキ職工ノ人員及男女年齢別

三 募集ノ區域及期限

四 募集者ト契約スヘキ條件

上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◎群馬縣告示第百九十八號 明治三十年十一月六日

石川縣ニ於テハ他府縣ニ於テ使用スル職工其他ノ勞役者ヲ同縣下ニ於テ募集セントスルモノ、取締法下シテ左記ノ通り縣令ヲ發布セシ旨通知アリ

◎石川縣令第七十號 明治三十年十月十六日

他府縣ニ於テ使用スル職工其他ノ勞役者ヲ本縣内ニ於テ募集セントスル者ハ左ニ記載スル事項ヲ詳具シ募集地警察署又ハ警察分署ヲ經由シ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

一 募集及之カ周旋ニ從事スル者ノ住所氏名年齢

二 募集スヘキ職工勞役者ノ人員及男女年齢

三 募集ノ區域及期限

四 應募者ト契約スヘキ條件

前項ノ認可ヲ受ケスシテ募集ニ着手シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◎群馬縣告示第百九十九號 明治三十年十一月六日

福井縣ニ於テハ他府縣ニ於テ使役スル職工其他勞役者ヲ募集セントスル者ノ取締法ニ付左記ノ通り縣令ヲ發シタル旨通知アリ

◎福井縣令七十二號 明治三十年十月廿六日

他府縣下ニ於テ使役スル職工其他勞役者ヲ本縣下ニ於テ募集セントスルモノハ左記ノ事項ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

一 募集ノ目的及其方法

二 應募者ト契約スヘキ條件

三 募集者及之ニ從事スルモノ、住所氏名

四 募集スヘキ職工勞役者ノ人員(男女ノ區別ヲ要ス)及年齡

五 募集ノ區域及其期限

前項ノ認可ヲ受ケスシテ募集ニ着手シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●群馬縣告示第五十三號 明治卅一年二月十二日

和歌山縣ニ於テハ他府縣ニ於テ使用スル職工其他勞役者ヲ全縣内ニ於テ募集セントスル者ニ對シ左ノ通縣令ヲ發シタル旨通知アリタリ

●和歌山縣令第九號 明治卅一年一月卅一日

他府縣ニ於テ使用スル職工其他勞役者ヲ本縣内ニ於テ募集セントスルモノハ左ニ記載スル事項ヲ詳具シ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ  
但諸會社其他工場等ニ於テ現ニ備役シツ、在ルモノヲ募集セントスルトキハ其備主ノ承諾ヲ受クヘシ

- 一 募集ノ目的及其方法
  - 二 應募者ト契約スヘキ條件
  - 三 募集者及之レニ從事スルモノ、住所氏名
  - 四 募集スヘキ職工勞役者ノ人員(男女ノ區別ヲ要ス)及年齡
  - 五 募集ノ區域及其期限
- 前項ノ認可ヲ受ケス募集ニ着手シ又ハ但書備主ノ承諾ヲ受ケスシテ募集シタルトキハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

## 保健取締

### 工場取締

◎群馬縣令第二十五號 明治三十二年六月廿六日

工場ニ於ケル傷病者届出方左ノ通相定メ來ル明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

- 第一條 職工徒弟十人以上雇使スル工場ニ於テ入院治療ヲ要スヘキ負傷者アルトキ並疾病負傷ノ爲メ解雇ヲ爲サントスル者及休業三十日以上ニ涉ル者アルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第二條 職工徒弟十人以上ヲ雇使シ且ツ寄宿舎又ハ社宅アル工場ハ毎月其舎宅内ニ在ル職工數及其患者數、死者數ヲ調査シ別表雛形ニ倣ヒ翌月五日限り所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 死者及疾病負傷ノ爲メ解雇ノ者及休業三十日以上ニ涉ルモノアルトキハ其職名、姓名、年齡、



◎群馬縣訓令甲第二百十號 明治三十三年十二月二十六日 警察部 警察署 警察分署  
 明治三十二年六月群馬縣令第二十五號工場病傷者届出ニ關スル施行手續左記ノ通相定メ明治卅二  
 年六月訓令甲第五十五號ヲ廢止ス

一縣令第二十五號第一條ノ入院治療ヲ要スルモノトハ骨折、脱臼、諸内臟或ハ貴要神經系統ノ損  
 傷及其疑アルモノ、耳目ノ管能ヲ癱瘓ニ歸セントスルノ外傷、危險ナル出血或ハ不具合併症ヲ  
 醸ス則傷、重大ナル熱傷及腐蝕ノ類ヲ云フ

二同第二條ニ依リ届出クル職工數及患者數死者及死者、疾病負傷ノ爲メ解雇ノ者又ハ休業三十  
 日以上ニ涉ル者ノ職名、年齢、病症等ハ紡績業ハ工場別ニ依リ其他ハ製品類別ニ依リ毎年一月  
 七月爾度ニ別表雛形ニ依リ半表ニ調製シ縣廳ニ報告スヘシ

製 品 類 別

生 絲	醬油、味噌	瓦	斯	燐寸小函	水 産 物	弦	柳 行 李
紡績絲	袋	電 燈	漆 器	罐	詰 筆	行	囊
紡績綿絲	足 袋	刷 毛	木 器	「ラム子」	鉛 筆	指	物
綿 絲	織 筵	電 燈 球	陶 器	石 險	桐 油	水	
撚 絲	紋 紙	陶 磁 器	樂 器	爪 草	紙 函	鑽	泉
毛 絲	染色漂白	筒子器	洋 傘	塗 料	懷 爐 灰	「ゴム」	

紐類	編物	刺繡	絹手巾	織物雜種	莫大小	段通	麻織物	紡績用木管	毛織物	綿「子ル」	綿織物	絹織物	羽二重	麻絲
洋傘骨	金網	針金	電線	時計	度量衡器	金庫	膠	銃	車輻	教育用品	採礦冶金器具	船舶機械	染料	織物整理
和紙	洋紙	印刷	革及其製品	煉炭	扇子	骸炭	石灰	「セメント」	土管	瓦	銅器	七寶	珎瑁	煉瓦
飴	晒餡	菓子	砂糖	漬物	酢	清酒	麥酒	煙草	穀粉	精穀	脫脂綿	醫藥品	工業藥品	和傘
「ランプ」	洋燈	揚枝	箒	紡車針	縫針	蓑精撰	下駄表	蓆産	疊表	花筵	麥稗真田	肥料	木蠟	油(植物油)
算盤	陶器繪付	蠟燭	石細工	弁柄	石粉	火繩	網	網	鼻緒	提灯	紙鳶	繪双紙	屏風	團扇
「場」	檜、籐細工	川葺	竹根鞭	竹細工	蠶種	棕櫚繩	石油	生絲荷造	「クレ」	建築	澁木	「キルク」	履物	元結







可ヲ受クヘシ

一敷地所在ノ町村名番號及所有者ノ姓名 一圖面(方位室數及坪數等ヲ詳記スヘシ)

第三條 長屋ハ他ノ建家トノ距離三尺以上タルヘシ

第四條 建家ノ敷地ハ下水ノ上端ヨリ三寸以上床ノ高サハ土臺下端ヨリ一尺五寸以上天井ノ高サハ床上六尺五寸以上タルヘシ

第五條 毎戸出入口ノ外ニ空氣流通ニ適スヘキ窓戶一ヶ所以上ヲ設クヘシ

第六條 厠圍ハ毎戸ニ一箇所以上ヲ設クヘシ

但家屋又ハ敷地ノ形狀等ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ二戸ニ一箇所ヲ設クルコトヲ得

第七條 長屋ノ後ニハ三尺以上ノ空地ヲ存スヘシ

第八條 裏長屋ノ前面ニハ九尺以上ノ通路ヲ設クヘシ若シ他ノ家屋ノ前面ト相對スルトキハ一丈二尺以上ノ通路ヲ設クヘシ

第九條 裏長屋ハ表家ヲ通過セズ別ニ六尺以上ノ路次口ヲ設クヘシ

第十條 長屋落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ乞フヘシ

但検査ノ上第三條ヨリ第九條ニ至ル各條ニ違フモノアルトキハ其使用ヲ禁シ又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 此規則發行前既設ノ長屋ハ改造ノ際本則ニ從フヘシ

但既設ノ分ト雖モ差置キ難キ廉アルトキハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 本則第二條第十條第十一條ニ違背シ及第十條第十一條但書ノ命ニ從ハサルモノハ違警罪ノ刑ニ處ス

●群馬縣令第六十一號 明治二十年四月二十二日

下水溝芥溜厠圍構造取締規則別紙ノ通相定本年五月十五日ヨリ「左ノ町村ニ(左記町村(名略之))施行ス

「但町村中ノ施行區域ハ所轄郡長之ヲ告示ス」

下水溝芥溜厠圍構造取締規則

第一條 下水溝芥溜厠圍ヲ新造又ハ改造セントスル者ハ左ノ方法ニ從ヒ其着手前落成後トモ所轄警察署又ハ分署ニ届出口頭(又ハ書面)検査ヲ受ク可シ

一 項 厠圍ノ構造ハ左ノ如シ

一 厠窩ハ堅固ナル陶器又ハ木石ヲ用ヒ其上部一尺四方ノ地面ハ漆喰等ヲ以テ漏斗狀ニ塗固メ尿尿ノ他ヘ散透セサル様構造スヘシ

一 厠圍ニハ各別ニ糞屎窩ヲ設ク可シ

二 項 下水溝ノ構造ハ左ノ如シ

一 下水溝ハ大下水溝又ハ河流ニ連續セシメ大下水又ハ河流ナキ地ハ必ス溜枳ヲ設ク可シ

一 下水溝ハ陶管又ハ木石樋ヲ以テ製シ下水ノ他ヘ漏出セサル様構造スヘシ

一 下水ノ呑口ニ銅鐵等ノ網ヲ設ク可シ

一 溜枳ハ煉化石又ハ木石類ヲ以テ製シ汚水ノ他ヘ透出セサル様堅固ニ構造ス可シ

一 下水溝及溜樹ハ堅牢ナル覆蓋ヲ設ク可シ

三項 芥溜ノ構造ハ左ノ如シ

一 芥溜ハ可成人家ニ遠隔シ飲用水ニ障害ナキ場所ニ設置スヘシ

一 芥溜場ノ周圍ハ木石等ヲ以テ圍ヲ設ケ汚物ノ飛散ヲ防クヘシ

第二條 下水溝芥溜圍其構造不完全若クハ場所不適當ト認ムルトキハ改修又ハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ其在來ノ構造ニ係ルモノモ亦同シ

第三條 從來下水溝芥溜等ノ設ケナキ地ニモ衛生上必要ト認ムルトキハ新設ヲ命スルコトアル可シ

第四條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲ス可キ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收ス可シ(廿年縣令第七十  
六號ニテ改正)

第五條 本則第一條ニ違背シ及第二條第三條ノ命ニ從ハザル者ハ違警罪ノ刑ニ處ス

◎群馬縣令第六十號 明治二十年四月二十二日

自今飲料ニ供スヘキ井水ト厠圍芥溜及下水溝トハ其距離一丈八尺以上ニアラサレハ設置スルコトヲ得ス

但土地ノ狀況ニヨリ本文ニ據リ難キ場所ハ所轄警察署又ハ分署へ出願許可ヲ得ヘシ

此ノ規則ニ違背スル者ハ違警罪ノ刑ニ處ス

◎群馬縣令第八十四號 明治二十年六月廿七日

汚物掃除

本年(四月)縣令第五十七號長屋建築規則及本年(四月)縣令第六十一號下水溝芥溜圍構造取締規則施行區域ハ一等市街地ニ改定ス

◎群馬縣令第五十九號 明治三十三年六月二十九日

左ノ町ニ明治三十三年法律第三十一號汚物掃除法ノ全部ヲ準用シ明治三十三年八月一日ヨリ施行ス

多野郡 藤岡町 北甘樂郡 富岡町 碓氷郡 安中町 利根郡 沼田町

山田郡 桐生町 邑樂郡 館林町 佐波郡 伊勢崎町

◎群馬縣令第六十號 明治三十三年六月二十九日

明治三十三年(六月)縣令第五十九號ニテ汚物掃除法ヲ準用シタル町ニ汚物掃除監視吏員ヲ設置セシメ其定員及俸給額左表ノ通定ム

種別	月俸額	定員
掃除監督長	貳拾圓以上參拾圓以下	一人
掃除監督	拾五圓以上貳拾圓以下	一人
掃除巡視	九圓以上拾五圓以下	相生町 二人 其他ノ町 一人

町ニ於テ一時ニ定員ヲ置キ難キ事情アルトキハ特ニ其事情ヲ具シ郡長ノ認可ヲ受ケ掃除監督長

ハ町長ニ掃除監督ハ助役ヲシテ之ヲ兼テシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ノ規定俸給額ヲ給スルコトヲ得ス

専務掃除監督ヲ置キタル町ニ於テハ郡長ノ認可ヲ受ケ掃除監督長ハ助役ヲシテ之ヲ兼テシムルコトヲ得(卅三年縣令七十)五號ニテ追加

●群馬縣令第三十五號 明治三十三年三月二十四日

明治三十三年法律第三十一號汚物掃除法第五條ニ據リ市ニ汚物監視吏員ヲ設置セシメ其定員及俸給額左表ノ通定ム

種別	月俸額	定員
掃除監督長	貳拾五圓以上五拾圓以下	一 人
掃除監督	拾五圓以上參拾圓以下	一 人
掃除監視	九圓以上拾五圓以下	五 人

市ニ於テ一時ニ定員ヲ置キ難キ事情アルトキハ特ニ其事情ヲ具シ知事ノ認可ヲ受ケ掃除監督長ハ助役ニ掃除監督ハ市書記ヲシテ之ヲ兼テシメ本務俸給ノ五分一以上三分一以下ノ手當ヲ給シ掃除監視吏員ノ規定俸給額ヲ給セサルコトヲ得

●群馬縣令第三十六號 明治三十三年三月二十四日

明治三十三年内務省令第六號第七條ニ依リ市掃除監視採用規則左ノ通定ム

掃除監視採用規則

第一條 掃除監視ハ此ノ規則ニ依リ試験合格者中ヨリ之ヲ採用ス

但左ニ該當スル者ハ第四條ノ試験ヲ經ルヲ要セス

- 一 曾テ判任官以上ノ職ヲ奉シ又ハ一個年以上市吏員ノ職ニ在リタル者(雇員ヲ除ク)
- 二 判任官以上ニ任用セラレヘキ資格ヲ有スル者
- 三 一個年以上巡查又ハ看守ノ職ニ在リタル者
- 四 曾テ陸軍兵卒ト爲リ下士適任證書ヲ有スル者

第二條 掃除監視志願者ハ年齢二十一歳以上四十五歳未滿ニシテ徴兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ

抵觸セサル者タルヘシ

- 一 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若ハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ付セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五ケ年ヲ經過セサル者
- 二 身分不相當ノ負債アル者又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者
- 三 官吏懲戒令巡查懲罰例又ハ市吏員懲戒處分ニ依リ其職ヲ罷免セラレ若ハ就職後故ナク三ケ年以内ニシテ掃除監視ノ職ヲ辭シ二ケ年ヲ經過セサル者
- 四 品行方正ナラス又ハ酒癖暴行ノ癖アル者

第三條 掃除監視ノ体格検査ハ左ノ諸項ニ適合スルヲ以テ合格トス

- 一 體質強壯ニシテ身体各部ニ特殊ノ異狀ナキ者

- 二 身体五尺以上ノ者
  - 三 兩眼ノ視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
  - 四 聽力完全ノ者
  - 五 言語應答明瞭ナル者
  - 六 精神ニ異狀ナキ者
- 第四條 掃除巡視ノ學術試験ハ左ノ諸項ニ適合スルヲ以テ合格トス
- 一 執務上必要ノ法規類ヲ理解シ得ル者
  - 二 普通往復文及記事文ヲ作り得ル者
  - 三 算術(加減乗除)ヲ爲シ得ル者
  - 四 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者
- 第五條 掃除巡視ノ採用試験ハ市吏員二名以上立合ノ上助役之ヲ施行ス
- 第六條 掃除巡視ハ採用ノ日ヨリ三ケ年以内ハ疾病ニ因ルノ外私事ノ故ヲ以テ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス
- 第七條 掃除巡視ノ採用試験ニ關スル手續ハ市長之ヲ定メ縣廳ニ報告スヘシ
- 第八條 掃除巡視ノ採用手續ハ一般市吏員ノ例ニ依ル
- 群馬縣令第六十一號 明治三十三年六月二十九日
- 明治三十三年(六月)縣令第五十九號ニテ汚物掃除法ヲ準用シタル町ニ明治三十三年(三月)縣令第三十六號市掃除巡視採用規則ヲ適用ス
- 群馬縣令第七十三號 明治三十三年七月二十七日

- 明治三十三年三月内務省令第五號汚物掃除法施行規則第二十一條ニ依リ郡村接近地及廣大ナル土地ニ於ケル汚物ノ處分ニ關スル件左ノ通り定ム
- 第一條 面積三千坪以上ノ土地並製造場又ハ畜舎ノ構内ニシテ其ノ面積五百坪以上ノ土地ヲ占有スル掃除義務者ハ其汚物ヲ市設ノ塵芥取扱場又ハ汚泥取扱場ニ搬出スヘシ
- 但警察官署ノ認可ヲ受ケタルトキハ別段ノ方法ニ依リ處分スルコトヲ得
- 第二條 郡村ニ接近シタル地區ノ掃除義務者ハ明治三十三年三月内務省令第五號汚物掃除法施行規則第三條ニ依ラサルコトヲ得
- 第三條 前條 地區ハ別ニ告示ヲ以テ之ヲ指定ス
- 第四條 本則第一條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附 則
- 第五條 汚物掃除法ヲ準用シタル町ニ本則ヲ適用ス
- 飲食物着色料取締**
- 群馬縣令第十八號 明治三十三年三月二日
- 飲食物及玩弄品着色料取締規則左ノ通り定ム
- 但明治十五年甲第四十七號飲食物彩色料取締規則ハ廢止ス
- 飲食物及玩弄品着色料取締規則
- 第一條 飲食物及玩弄品着色料ヲ販賣セントスル者ハ名稱、成分、製法使用ノ目的ヲ詳記シ現品

ヲ添所轉警察官署ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ  
 第二條 他廳府縣ニ於テ許可ヲ得タル色料ヲ販賣セントスル者ハ其許可證寫及現品ヲ添へ所轉警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第三條 着色料販賣人ハ左記ノ標札ヲ店頭ニ掲出スヘシ  
 二尺五寸

飲食物及玩弄品着色料販賣所  
 郡(市)町村大字番地 氏 名  
 寸 七

第四條 營業人廢業代替又ハ他廳府縣へ轉籍寄留スルトキハ所轉警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第五條 有害色料ヲ用ヒ着色シタル飲食物又ハ玩弄品ハ總テ販賣使用スルコトヲ得ス

第六條 警察官吏及衛生官吏ハ飲食物又ハ玩弄品ノ製造所若クハ販賣店ニ臨ミ製造方法原料又ハ製品ヲ検査スルコトアルヘシ

但検査ノ爲メ消費セシ材料ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

附 則

第七條 本則發布以前飲食物彩色料販賣ノ許可ヲ得タルモノハ本則施行後二ヶ月以内ニ更ニ出願

許可ヲ受クヘシ

品名	別名	成分
鉛白	白粉、胡粉、官粉、鉛粉、鉛、唐ノ土	鹽基性炭酸鉛(澱粉ヲ雜ヘルモノアリ)
亞鉛華	亞鉛白、酸化亞鉛	酸化亞鉛
輕粉	汞粉、イセオシロイ、ハオシロイ	格魯兒化水銀
生々乳	白降丹	同上
黃鉛	格魯謨黃コロムエルロト(コロモエル、コロムミール)	格魯謨酸鉛
雌黃	石雌黃、王雄、支那黃、キロウオル、ビメント	硫化砒素
藤黃	シワウ、ガムボージ	ゴムハルス
石黃	石脊ヲ蘆菅汁ニ浸シタルモノニ石黃ノ名ヲ附シタルモノアリ	硫化砒素
洋朱	エオシンレーキ、コーシンレーキ	エオシン鉛
丹	鉛丹、黃丹、生粉、長吉丹、乘久丹、光明丹、勝吉丹、市兵衛丹、朱粉	酸化過酸化鉛
扁青		



天瓜粉	天花粉	同	上	瓜蒌根ヨリ製シタルモノ
白糖	白砂糖	蔗	糖	
アルヘイ糖		同	上	蔗糖ヲ熱シテ熔融セシメタルモノ
各種穀粉		澱	粉	
鬱金		植物性品	上	
山梔子		同	上	
柳		同	上	サワ梨ノ皮ヨリ製シタルモノ
練梅		同	上	同上
黄蘗	キハダ、黄柏	同	上	
黄蘗エキス		同	上	黄蘗皮ヲ煎シツメタルモノ
サフラン	番紅色、クロクソ、泊夫藍	同	上	「クロクソサチウス」浸出液ヲ綿花ニ浸漬シタルモノ
青茅	ソメシバ	同	上	
日本紅	笹紅、小町紅	植物性品	上	紅色ヨリ製シタルモノ
狸燕脂	狸燕紙、紅燕紙、胡燕紙	動物精	品	「コセニール」ノ浸出液ヲ綿花ニ浸漬シタルモノ
蘇木浸出液	蘇防ノ浸出液	植物性品	上	

フロキシシ	フロクシシ	フタール色素	人工品
コセニール	呀囉虫	動物	
カルミン	カルマイン、洋紅、カメルール	同	上
茜草	ベニカヅラ	植物性品	天然産
辨柄(精製品)	鉄丹、ベニガラ	酸化鉄	(粘土ヲ混スルモノアリ)
麒麟血	麒麟竭、血竭	植物性品	「ドラセラドラコ」ト稱スル植物ノ樹脂
梅醋		同	上
ラクムス	リトムス、リトマス	同	上
赤蘿蔔		同	上
赤蕪		同	上
日本藍		同	上
洋藍	インド藍、インダゴ、インダクム、藍靛、靛藍	同	上
インダゴカルミ		植	礦
郡青	ウルトラマリン	酸化アルミニウム及硫酸アルミニウム	「インダゴ」ノ硫酸溶液ニ食鹽ヲ加ヘ製シタルモノ
不溶性(水ニ)	ベルリン青	青酸ノ復性鹽	



品名	別名	成分(物質)	製法	其他
第三表	玩弄品着色料			
銀箔	純銀箔	同上	同上	
銀粉	純金粉	同上	同上	
金箔	黄金箔、純金箔	同上	同上	
金粉	黄金粉、純金粉	礦物性品	同上	他ノ金屬ヲ含有セサルモノ
炭	阿膠ヲ含有セサルモノ	木炭、百艸霜、油煙、松煙	同上	植物質ノ炭化シタルモノ
紫蘇		同上	同上	
紫根		植物性品	天産品	
綠色郡青	綠色「ウルトラマリ	「硫化「ナトリウム」及「硫酸アルミニウム」		
艾葉	モチクサ	同上		
豆ノ粉		同上		
挽茶		同上		
青苔	海苔、シマダ海苔	同上	食用海苔	蒺藜草豆等ノ葉ヨリ製シタルモノ

花田紙	アホハナ紙、千艸紙、藍紙、ハウシ紙	植物性品		
棒藍露		同上		
藍露	青黛、靛花、澱粉花、水飛玉、板流	同上		
玉藍露		同上		
山藍		同上		
藍錠		同上		
藍蠟		同上		
阿仙藥		植物性品		「アカチア、カテツヒユ」ナル植物ノ樹脂
燒糖	カラメル、カルメロ	同上		砂糖ヲ焦シタルモノ
カ、オ渣	カ、オマツサ、シヨウコラ、ト、チヨコラ、イト	同上		「テオプロマカ、オ」ナル植物ノ子實ヨリ「カ、オ」脂ヲ絞リタル滓渣
桂皮末	肉桂末	同上		
蕨粉		同上	蕨根ノ粉	
蒲黃	(蒲粉ハ異物ナリ)	同上	蒲ノ花粉	
赤小豆ノ煎汁		同上		
コツフイ豆		同上		

胡粉	白土	石	石	アスベスト末	滑石末	角ノ粉	ボリート	黄土	代赭石	無名異	朱	辰砂	コセニラツク	茜草ラツク
白堊	磁土、陶土	石膏、硫酸石灰	キープス、硫酸石灰	石絨、石綿、石麻	温石、葡萄酒		硫酸バリウム	山黄	代赭、血石	禹餘糧	銀朱、赤色硫化水銀	赤色硫化水銀		
炭酸石灰	硫酸(アルミニウム)	硫酸石灰	炭酸、石灰及酸化石灰	「アルミニウム」及「マゲネシウム」ノ硫酸鹽	「シリカ」ノ硫酸鹽	磷酸及炭酸ノ石灰鹽	硫酸バリウム	酸化鐵及硫酸アルミニウム	酸化鐵(粘土ヲ混スルモノアリ)	酸化鐵粘土	硫化水銀	同	コセニラツク	植物色素同上
天然品	同上	同上及人工品	生石灰ノ崩解シタルモノ	天産品	天産品ヲ粉末ニシタルモノ	鹿角象牙其他骨等ノ灰化シタルモノ	天産品人工品	天産品	天産品	天産品	同上及人工品	天産品		

蘇木ラツク	ベレンシス	紺青	褐土	酸化マンガン	鐵漿及タンニ	各種ノ炭	グラファイト	雲母
	ベルリン青				オハグロ		石墨、黒鉛	マイカ、グリムメル
同上	青酸ノ復性鹽類	硫酸アルミニウム	酸化鐵粘土	酸化マンガン	タンニオン酸鐵	炭素及灰分	炭素粘土ヲ混ス	硫酸アルミニウム及アルカリ
人工品			天産品				天産品	天産品

清涼飲料水營業取締

群馬縣令第五十六號 明治三十三年六月廿二日

清涼飲料水營業取締規則施行細則左ノ通り定ム

清涼飲料水營業取締規則施行細則

第一條 清涼飲料水製造營業ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル申請書ニ原料品及用水ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

- 一 清涼飲料水ノ種類
- 二 製造場ノ位置坪數及構造仕様書並其圖面
- 三 調製器ノ名稱箇數及其構造
- 四 原料品名及其配合量並製造方法
- 五 容器量器ノ種類及其品質
- 六 瓦斯洗滌ニ用ユル器械ノ名稱箇數並洗滌用藥品名及其調製法
- 七 用水所在ノ地名番地

清涼飲料水製造所ノ移轉、改築増築ヲ爲サムトスルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

但移轉ノ場合ニハ前項第一號第三號乃至第六號ノ事項ヲ改築増築ノ場合ハ前項第一號第三號乃至第七號ノ事項ヲ具スルニ及ハス

第二條 清涼飲料水ノ製造ニ要スル原料品配合分量、製造方法、洗滌用藥品、並器具、器械、用水ヲ増減變更セントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 清涼飲料水ヲ販賣又ハ請賣セントスル者ハ其種類ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四條 清涼飲料水製造營業者廢業、改氏名、轉住等異動アリタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

清涼飲料水製造營業者死亡シタルトキハ家督相續人ヨリ前項ノ規定ニ準ジ届出ヘシ

清涼飲料水販賣及請賣營業者前二項ニ該當スル異動アリタルトキハ同上期日內ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第五條 清涼飲料水製造場ノ構造及設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 製造場ハ一定ノ區劃ヲ設ケ光線ノ射入空氣ノ流通ヲ圖リ塵埃不潔物ノ混入ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲナスコト
- 二 但製造場ハ倉庫物置炊事場又ハ多人數出入スル店舗內ニ設クルコトヲ得ス
- 三 製造場ノ周圍及天井ハ板張トナシ床ハ石煉瓦漆喰又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ敷設シ適當ノ傾斜ヲ付シ排除水洗滌水ヲ一定ノ汚水溜ニ導クノ裝置ヲナスコト
- 四 原料藥品ヲ貯藏スヘキ鎖輪アル場所ヲ設備スルコト
- 五 ラムヲ製造場ハ特ニ炭酸瓦斯中ニ混入スル有害瓦斯酸類金屬等ヲ除却スル爲除害器械並水槽ヲ備付ルコト

但除害器械ニ用ユル藥品及洗滌水ハ製造ノ都度交換スヘシ

第六條 當該官吏又ハ衛生技術員ハ清涼飲料水營業者又ハ調製小分ヲ爲ス者清涼飲料水取締規則

第八條ノ疾病ニ罹レル疑アリト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトアルヘシ

附 則

第七條 本則施行前ニ於テ認可シタル「ラムテ」製造場ニシテ本則第五條ノ規定ニ違フモノハ明治三十三年七月三十一日迄ニ改造又ハ設備スヘシ

### 氷雪營業取締

●群馬縣令第七十號 明治三十三年七月十三日

氷雪營業取締規則施行細則左ノ通相定ム

一 氷雪營業取締規則施行細則

第二條 氷雪ノ採取、製造、販賣營業ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其申請書ニ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ添ヘ毎年十月三十一日限リ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

一 採取場、製造場及貯藏所ノ位置

一 採取場、製造場ノ圖面

一 用水ノ種類

一 公私設用水ヲ使用スル時ハ市町村長又ハ水利組合管理者ノ許可書若ハ水下總代人ノ承諾書  
第二條 氷雪卸賣營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ其申請書ニ氷雪採取、製造販賣營業者ノ連署ヲ

求メ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第三條 貯藏所ニ氷雪ノ貯藏ヲ終リタルトキ(他府縣ニ於テ採取、製造シタルモノヲ包含ス)ハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經

テ縣廳ニ願出検査ヲ受クヘシ

前項ノ検査ヲ受ケタル氷雪ニアラサレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第四條 採取場、製造場若ハ貯藏所ヲ讓渡シ或ハ採取、製造販賣營業者並卸賣營業者轉住改氏名又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

採取、製造販賣營業者並卸賣營業者死亡シタルトキハ家督相續人ヨリ前項ノ規定ニ準シ届出ヘシ

第五條 採取場、製造場ハ人家鐵道又ハ國道縣道ニ接近シ若ハ培料ヲ施ス田畑及污水ノ流注スル沼池其他衛生上有害ト認メ得ヘキ場所ニ設クルコトヲ得ス

但シ採水池ノ面積ハ三千坪以上ノモノニ限ル

第六條 製造場ノ水池ハ石材又ハ一寸以上ノ厚板若ハ煉瓦、漆喰敲ヲ以テ周圍底面ヲ築造シ污水ノ流入滲透ヲ防キ水吐口ヲ設ケ製氷一回毎ニ餘剩ノ水ヲ排泄シ掃除ヲナシタル後新鮮ノ水ヲ引入ルヘシ

第七條 樋管ヲ以テ製造場ニ水ヲ引入ル、トキハ其ノ入口ニ塵埃除ヲ設クヘシ  
但シ縣廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ沈澱池ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第八條 石庫若ハ煉瓦造ニアラサル氷雪貯藏所ハ其ノ内面周圍ヲ板張トナスヘシ

第九條 氷雪卸賣營業者請賣營業者ハ其ノ採取、製造販賣營業者ヨリ採取場、製造場及採取製造販賣營業者ノ住所氏名ヲ記載シタル證票ヲ受ケ之ヲ所持スヘシ

### 牛乳取締

●群馬縣令第五十七號 明治三十三年六月廿二日

牛乳營業取締規則施行細則左ノ通り定ム

牛乳營業取締規則施行細則

336.22

第一條 牛乳搾取營業ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其中請書ニ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

一 牛乳搾取所(牛舎牛乳取扱室及運動場ヲ包含ス以下做之)ノ位置坪數構造仕様書並其圖面及近傍ノ形狀ヲ表示セル見取圖

二 乳牛種牛牝牛ノ頭數毛色種類産地及出産年月

牛乳搾取所ノ移轉改築増築ヲ爲サムトスルトキ並支所ヲ開設セントスルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ移轉改築増築ノ場合ハ前項二號ノ事項ヲ具スルニ及ハス

第二條 乳製品製造營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ申請書ニ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

一 乳製品製造所ノ位置坪數構造仕様書並其圖面

二 乳製品ノ種類並其製造方法

乳製品製造所ノ移轉改築増築ヲ爲サムトスルトキ並支所ヲ開設セントスルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

但改築増築移轉ノ場合ハ前項第二號ノ事項ヲ具スルニ及ハス

第三條 牛乳搾取所支所並乳製品製造所支所ノ改築増築ヲ爲サムトスル時ハ前二條ノ例ニ依ルヘシ

第四條 牛乳搾取所乳製品製造所並支所ノ新設改築増築ニ關スル工事落成シタルトキハ所轄警察

官署ヲ經テ縣廳ニ届出檢査ヲ受クルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 牛乳販賣又ハ請賣營業ヲ爲サムトスルモノハ牛乳搾取營業者ノ連署ヲ以テ所轄警察官署ニ届出ヘシ其元受者ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 牛乳搾取營業者搾取所以外ニ牛乳販賣支店ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第七條 牛乳營業者廢業休業改氏名轉住又ハ支所支店ノ閉鎖ヲナシタルトキハ第一條乃至第三條

第五條第六條ノ區別ニ從ヒ五日以内ニ縣廳又ハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

牛乳營業者死亡シタルトキハ家督相續人ヨリ前項ノ規定ニ準シ届出ヘシ

第八條 牛乳搾取所並支所ノ位置ハ土地乾燥ニシテ敷地内ニ適當ノ飲料水ヲ有スルコトヲ要ス

第九條 牛乳搾取所並支所ハ人家稠密ノ地ニ之ヲ設ケルコトヲ得ス

牛舎ハ隣地境界ヨリ五間以上運動場ハ隣地境界ヨリ一間以上ノ距離ヲ有スルコトヲ要ス

但其隣地山林河川沼澤等ニシテ家屋ヲ建設シ能ハサル場所ナルトキハ此限ニアラス

第十條 牛乳搾取所並支所ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 牛乳搾取所ノ周圍ハ適當ノ圍ヲ繞ラシ運動場ノ周圍ニ駒止柵ヲ造リ適當ノ排水法ヲ設ケルコト

二 牛舎ノ屋根ニハ適當ノ汚氣抜、周壁ニハ換氣窓ヲ設ケ内部ノ周圍ハ板張ト爲スコト

三 牛舎ハ飼牛一頭毎ニ幅五尺以上奥行八尺以上ノ面積ヲ有シ尙前後各四尺以上ノ餘地ヲ存シ前面見易キ場所ニ檢査番號ヲ記シタル木札ヲ釘附スヘシ

- 但對向シテ之ヲ設クル場合ハ其距離六尺以上ヲ存スルコト
- 四 牛舎ノ地盤ハ石、煉瓦、セメント、漆喰敷其他不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ尙其上ニ一寸以上ノ厚板ヲ張り適當ノ勾配ヲ付スルコト
- 五 尿樋ハ陶管又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ造リ適當ノ勾配ヲ附シ尿水ヲ舎外ニ導ク設備ヲナスコト
- 六 尿溜ハ釉藥ヲ施シタル甕其他不滲透質ノ材料ヲ以テ舎外二間以上ノ地ニ設ク且ツ其周圍ハ漆喰敷トシ地盤ヨリ高サ五寸以上トシ雨水ノ流入ヲ防キ適當ノ雨除ヲ付スルコト
- 七 尿及汚物溜ハ不滲透質ノ材料若クハ厚板ヲ以テ牛舎ヲ距ル二間以上ノ地ニ設ケ掃除口ハ挿蓋ト爲シ適當ノ屋根ヲ付スルコト
- 第十一條 牛乳搾取所並支所ニハ牛乳取扱室ヲ設クヘシ  
牛乳取扱室ハ寒冷ノ場所ヲ選ミ日光ノ直射ヲ避ケ且ツ塵芥ノ混入其他腐敗ヲ防クノ裝置ヲナスヘシ
- 第十二條 乳製品製造所並支所ノ周圍ニハ適當ノ塙塹ヲ設クヘシ
- 第十三條 牛乳搾取所並支所ハ常ニ清潔ニ掃除シ尿、尿及汚物溜ハ充溢セサル様毎日一回搬出スヘシ
- 第十四條 牛乳搾取所並支所ニ飼養セル牛ノ糞糞ハ常ニ清潔ナルモノヲ用ユヘシ
- 第十五條 牛乳搾取所並支所ニハ乳牛及乳牛用ニ充ツヘキ種牛牝牛ノ外之ヲ飼養スルコトヲ得ス

- 第十六條 牛乳營業者乳牛種牛ヲ買受讓受借受若クハ交換シタルトキハ獸醫ノ檢診ヲ受テ第一號様式ニ依リ其ノ診斷書ヲ添ヘ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 獸醫ノ檢診ヲ受ケサル牛ハ牛乳搾取所ニ牽入ルコトヲ得ス
- 第十七條 牛乳營業者ハ乳牛種牛ノ賣渡讓渡斃死其他異動アルトキハ第一號様式ニ依リ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 但斃死ノ場合ハ獸醫ノ檢案書ヲ添フヘシ
- 第十八條 牛乳搾取所並ニ支所内ニ飼養スル乳牛種牛ニハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ角若クハ蹄ニ検査番號ヲ烙記セシム
- 第十九條 牛乳搾取所並支所ノ飼牛ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ檢診セシメ乳房喉頭若クハ肺ノ結核全身ノ營養ヲ損害スル結核諸症ニ罹リタル牛ニハ其角ニ病字ヲ烙記セシム  
但シ時宜ニヨリ病字ヲ記シタル耳環ヲ付セシムルコトアルヘシ
- 第二十條 牛乳搾取營業者ハ其飼牛、牛乳營業取締規則第五條第一號ノ疾病ニ罹リ若クハ其疑ヒアルトキハ速ニ獸醫ヲシテ診察セシメ検査番號名稱種類毛色年齢及病名ヲ記シ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 前項ノ疾病ニ罹レル乳牛ハ搾取所構外ニ隔離スヘシ
- 第二十一條 牛乳搾取營業者ニ於テ牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥ヲ處方シタル旨獸醫ノ告知ヲ受ケタルトキハ検査番號、名稱種類、毛色、年齢及藥名ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

シ(三十三年縣令六十五號)(卅三年縣令九十  
ニテ廿一條二項追加)(二號ニテ改正)

- 第二十二條 飼牛ハ日々清潔ニ梳拭シ適當ノ運動ヲ爲サシムヘシ
- 第二十三條 牛乳搾取所并支所ニハ第二號様式ノ牛籍簿ヲ備ヘ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ
- 第二十四條 牛乳營業者ハ牛乳、乳製品若クハ其容器量器調製器ヲ取扱フ者ノ身体被服ヲ清潔ニ爲サシメ搾乳スルトキハ石鹼及清水ヲ以テ両手ヲ洗滌シ塵芥其他汚物ノ容器ニ混入セサル様注意セシムヘシ
- 第二十五條 當該官吏又ハ衛生技術員ハ牛乳乳製品若クハ其容器量器調製器ノ取扱ヲ爲ス者牛乳營業取締規則第十二條ニ掲クル疾病ノ疑アリト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトアルヘシ
- 第二十六條 牛乳ヲ搾取スルトキハ乳牛ノ乳房及周邊ヲ微温湯ニテ洗滌シ清潔ナル白布ヲ以テ拭淨スヘシ搾取ヲ終リタルトキ亦同シ
- 第二十七條 牛乳ヲ搾取シタルトキハ清潔ナル白布ノ類ヲ以テ濾過シ覆蓋アル容器ニ貯藏シ牛乳取扱室ニ於テ配達容器ニ移シ直チニ密閉スヘシ
- 第二十八條 牛乳又ハ製乳品ノ容器量器調製器ハ使用ノ後直ニ石鹼曹達其他亞爾加里性熱湯液ニテ能ク洗滌シ再ヒ清潔ナル熱湯ニテ洗ヒ乾燥スヘシ
- 第二十九條 乳製品ノ容器ニハ其種類及製造者ノ住所氏名及製造年月日ヲ記スヘシ
- 第三十條 牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在テハ百分中三〇以上脱脂乳ニ在テハ百分中〇、五以上トス

第三十一條 牛乳營業者ハ帳簿ヲ備置キ毎日搾取及販賣シタル分量ヲ記載シ一ヶ月分ノ牛乳搾取又ハ乳製品ノ製造及販賣高ヲ計算シ翌月十日迄ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第三十二條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ配達人ヲシテ第三號様式ノ證票ヲ携帯セシムヘシ

附 則

第三十三條 本則施行前ニ認可シタル牛乳搾取所并支所ニシテ衛生上不適當ト認ムルトキハ一ヶ年以内ニ他ニ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

本則施行前認可ノ牛乳搾取所并ニ支所ニシテ本則第十條ノ規定ニ違フモノハ明治三十三年八月三十一日迄ニ之ヲ改造スヘシ

第一様式 (用紙半紙)

乳牛(種牛)異動届

検査番號	名 稱	種 類	毛 色	出産年月	産 地	異動事由 及年月日	前 所 住 所 氏 名	所 有 者 名

右及御届候也

年 月 日

何郡(市)何町(村)大字番地  
牛乳營業者 氏

名 印

知事宛

異動ノ事由及年月日欄内ニハ賣買、贈與、交換、貸借、分娩、屠殺、斃死、放牧、支所移シ、預入等異動ノ年月日及事由ヲ記スヘシ

第二號様式 (用紙全上)

検査番號	名稱	種類	毛色	年齢	特徴	病歴	備考
	産地	前所有者 住所氏名	推取所ニ 率入タル 年月日				

備考欄内ニハ賣買、贈與、交換、貸借、分娩、屠殺、斃死、放牧、支所移シ、預入等ノ事項及年月日ヲ記入スヘシ

第三號様式

表 牛乳(乳製品)配達人 住所氏名	裏 牛乳營業者氏名 住所
-------------------------	--------------------

木製ニシテ堅三寸横二寸

◎群馬縣令第五十八號 明治三十三年六月二十二日

獸醫乳牛ヲ診察シ明治三十三年(四月)内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第一號ノ疾病ト診斷シタルトキハ即時該乳牛所持ノ搾取營業者ニ通知スヘシ違背シタルモノハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(廿三年縣令第九十三號ニテ一部除削)

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

◎群馬縣訓令甲第八十號 明治三十三年七月六日 警察部 警察署 警察分署

明治卅三年六月縣令第六十二號ヲ以テ明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第十五條及明治三十三年六月内務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則第九條ニ依リ明治三十三年法律第十五號第一條ノ處分ヲ爲ス件ニ關シタルニ就テハ其執行方左ノ通り心得ヘシ  
一 左ノ物件ニ對シテハ所轄警察官署ニ於テ検査ヲ行ヒ相當處分スルコト



- 一 牛乳營業取締規則施行細則第二十條第一項第二十一條第二項ニ依リ届出タル牛
  - 二 牛乳營業取締規則第五條第三號ノ牛
  - 三 同則第六條ノ容器ヲ用ヒタル牛乳乳製品
  - 四 同則第七條第一號第二號第四號ノ牛乳
  - 五 同則第九條第一號ノ乳製品
  - 六 清涼飲料水營業取締規則第三條ノ器具
  - 七 同則第五條第一號第二號ノ清涼飲料水
  - 八 氷雪營業取締規則第六條ノ場合ニ於テ全則第三條第一項ノ規定ニ適合セサル氷雪
- 二 左ノ物件ニ對シテハ衛生技術員ノ検査ヲ經タル後相當處分スルコト
- 但警察部ノ認可ヲ受ケタル場合ハ所轄警察官署ニ於テ検査ヲ行ヒ牛乳營業取締規則第七條第五號ノ牛乳ニ對シ處分ヲ爲スコトヲ得
- 一 牛乳營業取締規則第五條第一號第二號ノ牛
  - 二 同則第七條第三號第五號ノ牛乳
  - 三 同則第九條第二號第四號第五號ノ乳製品
  - 四 清涼飲料水營業取締規則第五條第三號乃至第八號ノ清涼飲料水
  - 五 氷雪營業取締規則第六條ノ場合ニ於テ同則第三條第二項ノ規定ニ適合セサル氷雪
  - 三 牛乳營業取締規則第五條第二號第三號ノ牛ニ對シ採取ヲ禁止シタルトキハ該牛ヲ構内適當ノ

場所ニ隔離スルコト

- 四 販賣、授與、使用ヲ禁止シタル牛乳、乳製品、清涼飲料水氷雪ハ其容器又ハ氷雪貯藏所ニ禁止ノ旨ヲ明記シ警察官吏ノ認印ヲ捺シタル封緘ヲ施シ營業者ニ交付スルコト
- 但營業者ニ於テ廢棄ヲ爲サンコトヲ申出タルトキハ其場所ニ立會フヘシ
- 五 使用ヲ禁止シタル器具ハ清涼飲料水製造場内ニ置カシメサルコト
- 六 本年二月法律第十五號第一條第二項ニ依リ廢棄ノ處分ヲ必要ト認ムルトキ並同項但書ニ依リ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ處置センコトヲ請フモノアルトキハ直ニ上申指揮受

●群馬縣令第六十二號 明治三十三年六月廿九日

明治三十三年(三月)内務省令第十號第一條第二項ニ據リ左記ノ事項ハ所轄警察官署ヲシテ之ヲ處分セシム

- 一 明治三十三年(四月)内務省令第十五號牛乳營業取締規則第十五條ニ依リ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ採取、販賣、授與、若ハ使用ヲ禁止スルコト
- 一 明治三十三年(六月)内務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則第九條ニ依リ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ販賣授與若ハ使用ヲ禁止スルコト
- 一 明治卅三年(七月)内務省令第三十七號氷雪營業取締規則第六條ニ依リ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ販賣授與ヲ禁止スルコト(卅三年縣令七十) (一號ニテ追加)

◎群馬縣訓令第八十七號

明治三十三年七月二十日

內務部 警察部

乳牛検査嘱托獸醫ノ旅費ハ本年二月訓令甲第八號乙號判任官旅費額ヲ支給ス

斃獸並化製所取締

◎群馬縣令第十九號 明治三十三年三月二日

斃獸并化製所取締規則左ノ通り定ム

斃獸並化製所取締規則

- 第一條 本則ニ於テ斃獸ト稱スルハ獸疫ニ罹ラサル牛馬羊豚犬ノ斃死シタルモノヲ云フ
- 第二條 斃獸ハ皮剥場外ニ於テ解体スヘカラス
- 第三條 斃獸ノ取扱ヲナスモノハ屠獸及賣肉營業ヲ兼ヌルコトヲ得
- 第四條 牛馬羊豚犬ノ斃死シタルトキハ其所有者若クハ管理人ハ直チニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第五條 斃獸皮剥場ヲ設置セントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ  
其變更増設ヲナストキ亦同シ
- 一 地種目及反別並ニ道路人家飲料水及河川ニ至ル距離等ヲ記載シタル明細圖
- 二 四隣地主ノ承諾書
- 三 借地ナルトキハ地主ノ連署ヲ要ス
- 第六條 斃獸皮剥場ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
- 一 皮剥場ノ位置ハ國縣道鐵道人家社寺飲料水及河川ヲ距ル六十間以上ノ地ニ限ルヘシ

二 皮剥場ハ屋根ヲ設ケ解体室ノ地盤ハ一寸以上ノ勾配ヲ付シ汚物溜ニ通スル様石、煉瓦、漆喰、敲又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ築クヘシ

三 汚物溜ハ陶器又ハ漆喰、敲等ヲ以テ設ケ臭氣ノ漏洩セサル様覆蓋ヲナスヘシ

四 皮剥場ノ周圍ニハ板塀ヲ設クヘシ

第七條 斃獸ハ埋没場ノ外狹リニ埋没スヘカラス

但シ事情已ムヲ得スシテ埋没場外ニ埋没セントスルトキハ第八條及第十條ノ制限ニ從ヒ埋没スヘキ地名ヲ記シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 斃獸ハ埋没場ニ於テ焼却シ又ハ六尺以上坑ヲ掘リ埋藏スヘシ

第九條 斃獸埋没場ヲ設置セントスルトキハ第五條ノ各項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 斃獸埋没場ノ位置ハ第六條第一項ノ制限ニ依ルヘシ

第十一條 斃獸及撲殺シタル獸類ノ臍骨等ヲ原料トシ肥料其他工業材料製造ノ目的ヲ以テ化製所

ヲ建設セントスルモノハ左ノ各項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其改造變更ヲ要スルトキ亦同シ

一 地種目及反別道路人家飲料水及河川ニ至ル距離並ニ四隣明細ノ圖面

二 建物ノ圖面

三 構造ノ仕様書

四 隣地所有主ノ承諾書

- 五 借地ナルトキハ地主ノ連署
- 第十二條 第十一條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ
- 第十三條 化製所ヲ廢止シ又ハ休業シタルトキハ其旨所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第十四條 化製所ハ左ノ制限ニ從フヘシ
  - 一 化製所ノ位置ハ國縣道鐵道人家社寺飲料水及河川ヲ離ル百間以上ノ地ニ限ルヘシ
  - 二 化製所ノ周圍ニハ高サ九尺以上ノ見透サ、ル牆壁ヲ設クヘシ
  - 三 木造ニ係ル化製所用ノ建物ハ内外共「ベンキ」ヲ塗ルヘシ
  - 四 化製所用ノ建物ニハ二ヶ所以上ノ出入口并ニ窓戶ヲ設ケ且屋上ニハ空氣抜ヲ設クヘシ
  - 五 建物ノ地盤ハ石又ハ煉瓦ヲ敷設シ其間隙ハ「セメント」「コンクリート」ノ類ヲ以テ接合シ又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テシ且ツ汚水溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ
  - 六 汚水溜ハ内外ニ油藥ヲ焼付タル瓶又ハ厚三寸以上ノ「セメント」敲キヲ以テ敷設スヘシ
  - 七 除毛及皮漬用ノ桶樽類ハ一寸以上ノ厚板ヲ用ヒ臭氣ノ漏レサル様蓋ヲ施スヘシ
  - 八 竈ヲ使用スルモノハ石又ハ煉瓦ヲ以テ造リ火焚口ノ蓋ハ鐵板蓋口ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ蓋ヲ作ルヘシ
  - 九 烟筒ハ石、煉瓦又ハ鐵管ヲ以テ建設スヘシ
    - 但鐵管ニシテ壁又ハ屋上ヲ貫通スルモノハ厚サ三寸以上ノ石又ハ漆喰ヲ以テ其部分ヲ箱塞スヘシ

- 第十五條 化製所構内ニ於テ斃獸ヲ支解シ若クハ廢獸ヲ撲殺スルモノハ第六條ノ規程ニ依リ皮剥場ヲ設置スヘシ
  - 第十六條 斃獸皮剥場及埋沒所化製所ノ所有者變更シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
  - 第十七條 斃獸ノ解体ヲナストキハ其日時ヲ定メ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
  - 第十八條 解体シタル肉ハ細斷シテ小片トナシ石油ヲ注キ食料ニ供シ能ハサル様處置スヘシ
  - 第十九條 皮剥場ニ於テ解体シタルトキハ其臟器皮骨肉等ヲ速ニ取片付場内ヲ清潔ニ掃除スヘシ
  - 第二十條 廢獸ヲ撲殺シタルモノ又ハ變死傷ノ斃獸ヲ特ニ食用ニ供セントスルトキハ獸醫ノ檢案書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出許可ヲ受クヘシ
  - 第二十一條 病獸ヲ撲殺解体セントスルトキハ本則ニ準據スヘシ
- 附 則
- 第二十二條 既設ノ斃獸及皮剥場及埋沒所化製所ニシテ本則ニ不適合ノモノハ本則發布ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ改造シ更ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 屠獸賣肉取締
- 群馬縣令第四十三號 明治二十一年七月五日
- 明治十九年二月本縣甲第十九號布達屠獸取締規則別冊ノ如ク改定シ來ル八月一日ヨリ施行ス
- 但從前ノ屠獸場ニシテ引續キ營業セントスルモノハ施行期日迄ニ願出允許ヲ受クヘシ

屠獸及賣肉取締規則

屠獸場

第一條 屠獸場トハ自用ト販賣トヲ間ハス食料ニ供スル牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス

第二條 屠獸場ヲ開設セントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ建設地戸長ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出ヘシ

改造セントスルトキ亦同シ

但第一項乃至第四項ノ圖面摸樣書及承諾書ヲ要セス

一 構造ノ圖面及仕樣書  
一 建設地ノ圖面

一 建設地借地ナルトキハ地主ノ承諾書  
一 建設地四隣凡六十間以内ノ摸樣書其地主ノ承諾書

一 建築落成期日

第三條 屠獸場ハ國縣道鐵道人家及飲料水ヲ距ル凡六十間以上ノ地ニアラサレハ之ヲ設クルコトヲ得ス

第四條 屠獸場ノ構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一 屠獸場ノ周圍ニハ土堤又ハ牆塀柵欄等ヲ設クヘシ

一 場内ニハ屠室ヲ設ク其周圍ハ石又ハ煉化若シハ厚板ニテ造リ地盤ハ石疊又ハ敲等ヲ敷設シ繼目ハ「セメント」ニテ接合シ石又ハ敲等ヲ以テ汚物溜ニ通スル溝ヲ設ク且地盤及溝ハ血液ノ流下ニ便スル爲メ適宜ノ勾配ヲ付スヘシ

一 瓶敲等汚水ノ地中ニ滲透セサル物ヲ以テ屠室外九尺以上ノ地ニ血液ノ溜壺ヲ設ケ其臭氣ノ發散ヲ妨ク爲メ相當ノ蓋ヲ設クヘシ

第五條 屠獸場ノ建設改造ノ期日ヲ遷延シ六月以上ニ渉ルモノハ允許ノ効ヲ失フヘシ

第六條 屠獸場落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出檢査ヲ受クルニアラサレハ開業スルコトヲ得ス

但檢査ノ際警察官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ全部又ハ幾部ノ改築ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 屠獸場入口ニハ付録第一號式ニ準シタル標札ヲ掲クヘシ

第八條 屠獸場ヲ買受テ讓受ケントスルモノハ賣渡讓渡主連署戸長ノ與書ヲ受ク五日以内所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第九條 轉居改氏名又ハ廢場シタルトキハ戸長ノ與書ヲ受ク五日以内所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

屠獸

第十條 食料ニ供スル牛馬羊豚ヲ屠殺セントスルトキハ獸醫ノ檢按書ヲ添ヘ屠獸場所轄ノ警察署又ハ警察分署ニ届出警察官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ(三十年縣令四十一號ニテ改正)

解體后更ニ獸醫ノ檢按ヲ得テ食料ニ供シ差支ナキ旨ノ證明書ヲ受ク可シ

但獸類ヲ警察署又ハ警察分署ニ牽致シ檢印ヲ受ケタルトキハ警察官吏ノ臨檢アラサルトキト